

2022年度 医薬品安全管理研修会

Connecting with a line
～チーム医療の可視化～



トピックス

①タスクシェア・シフトの概要

②PBP・Mの考え方

③薬から始まる患者情報の院内共有と院外共有

④PBP・Mの標準化でもたらされる薬剤師の生産力・還元力

⑤ Connecting with a line の考え方

⑥シンデレラにできること

⑦政府の今後の指針と展望

⑧患者様をメンバーに含むチーム医療の可視化

⑨当院の考える薬剤師の育て方



各都道府県知事 殿

厚生労働省医政局長
(公 印 者 略)

現行制度の下で実施可能な範囲におけるタスク・シフト/シェアの推進について

医師の業務については、医療技術の高度化への対応や、患者へのきめ細やかな対応に対するニーズの高まり等を背景として、書類作成等の事務的な業務も含め、増加の一途を辿っていると指摘されている。こうした状況の中で、医師の時間外労働の上限規制が適用される令和 6 年 4 月に向けて、医師の労働時間の短縮を進めるためには、多くの医療関係職種それぞれが自らの能力を生かし、より能動的に対応できるようにする観点から、まずは、現行制度の下で実施可能な範囲において、医師の業務のうち、医師以外の医療関係職種が実施可能な業務について、医療機関において医師から他の医療関係職種へのタスク・シフト/シェアを早急に進める必要がある。このため、「医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進に関する検討会」における議論を踏まえ、現行制度の下で医師から他の医療関係職種へのタスク・シフト/シェアが可能な業務の具体例やタスク・シフト/シェアを推進するに当たっての留意点等について、下記のとおり整理したので、貴職におかれては、その内容について御了知の上、各医療機関において、その実情に応じたタスク・シフト/シェアの取組が進むよう、貴管内の市町村（特別区を含む。）、医療機関、関係団体等に周知方願いたい。

なお、診療報酬等の算定については、従前どおり関係法令をご確認いただきたい。

記

1. 基本的考え方

医師から他の医療関係職種へのタスク・シフト/シェアを進めるに当たっては、医療安全の確保及び各医療関係職種の資格法における職種毎の専門性を前提として、各個人の能力や各医療機関の体制、医師との信頼関係等も踏まえつつ、多くの医療関係職種それぞれが自らの能力を生かし、より能動的に対応できるよう、必要な取組を進めることが重要である。

その上で、まずは、現行制度の下で実施可能な範囲において、医師以外の医療関係職種が実施可能な業務についてのタスク・シフト/シェアを最大限に推進することが求められる。このため、厚生労働省において令和元年 6 月から 7 月にかけて実施したヒアリングの中で各種職団体及び各種学会から提案のあった項目を基に、現行制度の下で医師から他の医療関係職種へのタスク・シフト/シェアが可能な業務の具体例について、3. のとおり整理した。各医療機関においては、3. において記載した業務の具体例も参考にしつつ、各医療機関の実情に応じて、タスク・シフト/シェアの取組を進められたい。

また、タスク・シフト/シェアを効果的に進めるために留意すべき事項について、「意識」「知識・技能」「余力」の3つの観点から、2. のとおり整理したので、2. において記載した留意点も踏まえつつ、タスク・シフト/シェアの取組を進められたい。

なお、今後、厚生労働省において、医療機関におけるタスク・シフト/シェアの推進の好事例について、2. において記載した留意点も踏まえた推進のプロセスや、費用対効果も含めて、収集・分析を行い、周知を行うことを予定している。

2. タスク・シフト/シェアを効果的に進めるために留意すべき事項

1) 意識改革・啓発

タスク・シフト/シェアを効果的に進めるためには、個々のモチベーションや危機感等が重要であり、医療機関全体でタスク・シフト/シェアの取組の機運が向上するよう、病院長等の管理者の意識改革・啓発に加え、医療従事者全体の意識改革・啓発に取り組むことが求められる。具体的には、病院長等の管理者向けのマネジメント研修や医師全体に対する説明会の開催、各部門責任者に対する研修、全職員の意識改革に関する研修等に取り組む必要がある。特に、一部の職種のみ又は管理者のみの意識改革では、タスク・シフト/シェアが容易に進まないことに留意する必要がある。

2) 知識・技能の習得

タスク・シフト/シェアを進める上で、医療安全を確保しつつ、タスク・シフト/シェアを受ける側の医療関係職種の不安を解消するためには、タスク・シフト/シェアを受ける側の医療関係職種の知識・技能を担保することが重要である。具体的には、各医療関係職種が新たに担当する業務に必要な知識・技能を習得するための教育・研修の実施等に取り組む必要がある。教育・研修の実施に当たっては、座学のみではなくシミュレーター等による実技の研修も行うほか、指導方法や研修のあり方の統一・マニュアルの作成を行うことなどにより、医療安全を十分に確保できるよう取り組む必要がある。

3) 余力の確保

タスク・シフト/シェアを受ける側の医療関係職種の余力の確保も重要である。具体的には、ICT機器の導入等による業務全体の軽減を行うほか、医師からのタスク・シフト/シェアだけでなく、看護師その他の医療関係職種から別の職種へのタスク・シフト/シェア（現行の担当職種の見直し）にもあわせて取り組むことなど、一

連の業務の効率化を図るとともに、タスク・シフト/シェアを受ける側についても必要な人員を確保することなどにより、特定の職種に負担が集中することのないよう取り組む必要がある。

3. 現行制度の下で医師から他の医療関係職種へのタスク・シフト/シェアが可能な具体例



医師の働き方改革を進めるための タスク・シフト/シェアに

① 周術期における薬学的管理等 周術期における薬剤管理等の薬剤に関連する業務

② 病棟等における薬学的管理等 病棟等における薬剤管理等の薬剤に関連する業務* 小児病棟

2022年4
月診療報酬
改定済

③ 事前に取り決めたプロトコール(PBPM)

④ 薬物療法に関する説明

⑤ 医師への処方提案

2024年4
月診療報酬
改定に
むけて

⑥ 糖尿病患者等における自己注射や自己血糖測定等の実技指



トピックス

①タスクシェア・シフトの概要

②PBP・Mの考え方

③薬から始まる患者情報の院内共有と院外共有

④PBP・Mの標準化でもたらされる薬剤師の生産力・還元力

⑤ Connecting with a line の考え方

⑥シンデレラにできること

⑦政府の今後の指針と展望

⑧者をメンバーに含むチーム医療の可視化

⑨当院の考える薬剤師の育て方



当薬剤科のコンセプトは**共有**の**可視化**

- ・薬から始まる患者情報の院内共有

PBP・M
(システム)

- ・薬から始まる患者情報の院外共有



【事前に作成・合意されたプロトコルに基づく薬物治療・管理】
Protocol Based Pharmacotherapy ・ Management】

PBP・M＝薬剤師主導の薬剤共有システム

**PBP＝薬物治療における院内ルール
(シフト)**

**M＝PBPの管理(評価)⇒スケールの統一
可視化による(シェア)**



トピックス

- ①タスクシェア・シフトの概要
- ②PBP・Mの考え方
- ③薬から始まる患者情報の院内共有と院外共有
- ④PBP・Mの標準化でもたらされる薬剤師の生産力・還元力
- ⑤ Connecting with a line の考え方
- ⑥シンデレラにできること
- ⑦政府の今後の指針と展望
- ⑧患者様をメンバーに含むチーム医療の可視化
- ⑨当院の考える薬剤師の育て方



【PBP・M】

①定期処方設計

②退院処方設計

患者情報の院内共有

③退院時薬剤情報共有書の作成

患者情報の院外共有



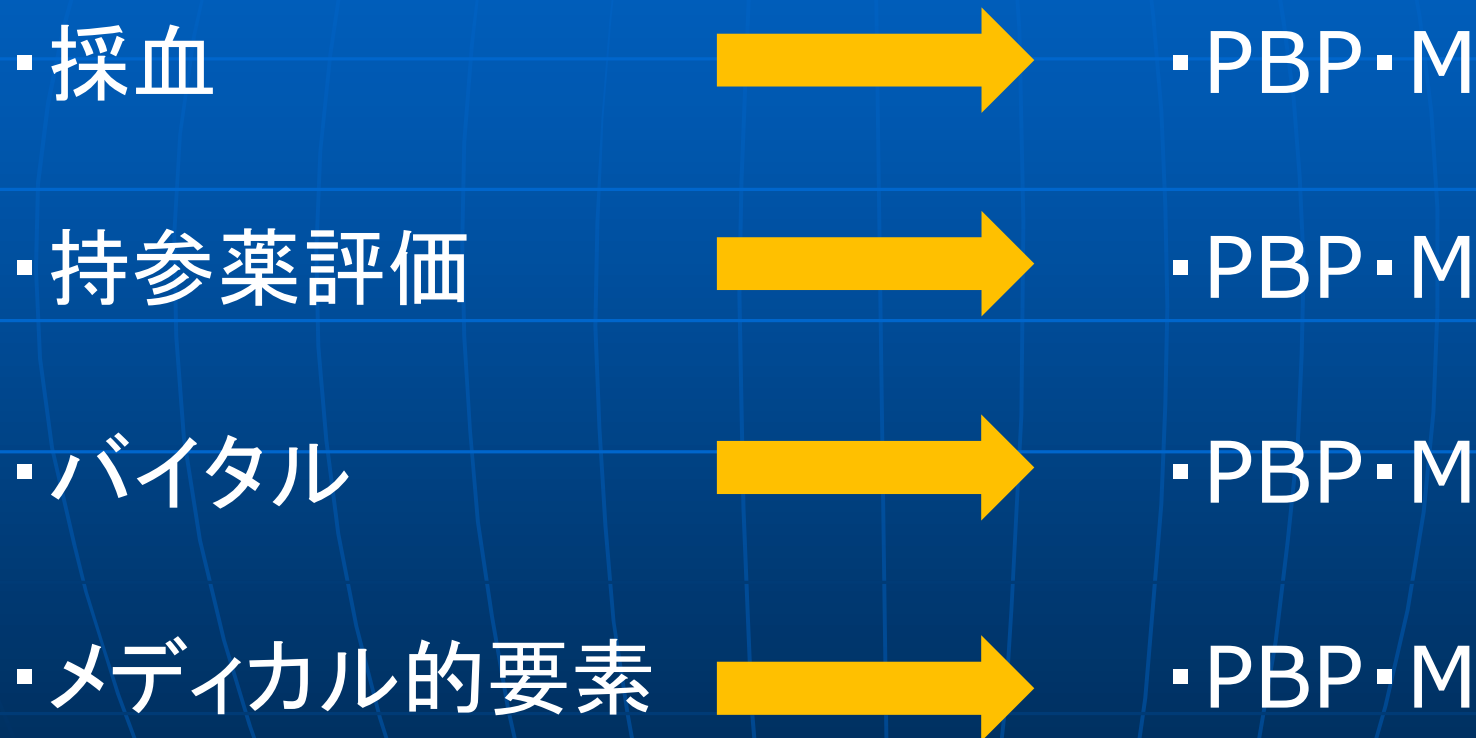
院内共有



①PBP・M定期処方設計

・定時処方アップデート

*Do(ditto)処方ではなくdefaultのアップデート



PBP・M定期処方設計はさらに4つのPBP・Mが必要

PBP・M採血

PBP＝ 採血オーダーの入力

M＝ 内容・タイミング（日取りのバランス取り）



臨時処方などの定期処方以外の処方箋
の削減につながります。

薬剤師と医師と協同で採血設計をオーバーラップ



入院 7月マサキ 昭和19年(月)日 74歳 6ヶ月 保険自動決定 堀口 大輔

【治療計画】修正可 薬剤師 堀口 大輔 2018/6/9 08:06:45 未承認

更新日時:2018/6/9 08:14 更新者:堀口 大輔

テスト 勝

○実地日 ○オーバー日 最終表示

DOX(%) DOX(%) カルシウム

【2018年7月17日(火)回診Drへ】

2018年7月7日よりラニラピッド:0.05mg開始、7/17現在
 HR:40~50、Ccr:40.0、K値:4.8⇒7/18:DOX血中濃度
 追加しました。確認お願いします。堀口

テスト 勝 【看護科 脳神経外科】

- ≡2017/8/25
- ≡【処方】 継ぎ 院内 実施済 脳外科 入院 2017/8/
- ≡2017/4/14
- ≡【処方】 継ぎ 院内 実施済 脳外科 入院 2017/4/
- ≡2017/3/29
- ≡【処方】 継ぎ 院内 実施済 脳外科 入院 2017/3/
- ≡2015/9/30
- ≡【処方】 臨時 院内 実施済 脳外科 入院 2015/9/
- ≡2015/9/17
- ≡【処方】 臨時 院内 実施済 脳外科 入院 2015/9/
- ≡2015/7/24
- ≡【処方】 臨時 院内 実施済 脳外科 入院 2015/7/
- ≡2015/7/16
- ≡【処方】 臨時 院内 実施済 脳外科 入院 2015/7/

記録-オーバー 記録-オーバー

●実地日 ●オーバー日 ●最終表示

●全日 ●日報指定 ●表示



PBP・M持参薬

PBP＝ 鑑別からの代替・変更

M＝ 検査値・バイタル・メディカル的要因

薬剤師と医師協同で処方設計をオーバーラップ



【2021年11月16日(火)回診Drへ】

2017/8/25	【処方】 継ぎ 院内 実施済 脳外科 入院 2017/8/25
2017/4/14	【処方】 継ぎ 院内 実施済 脳外科 入院 2017/4/14
2017/3/29	【処方】 継ぎ 院内 実施済 脳外科 入院 2017/3/29
2015/9/30	【処方】 臨時 院内 実施済 脳外科 入院 2015/9/30
2015/9/17	【処方】 臨時 院内 実施済 脳外科 入院 2015/9/17
2015/7/24	【処方】 臨時 院内 実施済 脳外科 入院 2015/7/24
2015/7/16	【処方】 臨時 院内 実施済 脳外科 入院 2015/7/16

PBP・Mバイタル

PBP＝ 薬局内でのバイタル確認

M＝ 下限・上限値のスケール評価



PBP・Mメディカル的要素

PBP＝ 定期処方 **前** の情報収集

M＝ 患者からの訴え・診療録からの評価



2018/6/13

新規【処方】 定期 院内 脳外科 入院 2018/6/13 夕 湧井 健治

⊕Rp01

クロイドグレル錠75mg	1錠
バイアスピリン100mg	1錠
バリエット錠 5mg	1錠
... 1日1回 朝食後	7日

⊕Rp02

フロセミド錠 20mg	2錠
1日2回 朝・夕食後	7日

⊕Rp03

マグミット錠330mg	3錠
1日3回 毎食後	7日

⊕Rp04

アロプリノール錠 100mg	0.5錠
トラゼンタ錠 5mg	1錠
... 1日1回 朝食後	7日
持参薬より変更	

用法毎に、分1、分2、分3の順位、持参薬からの切り替えは最後に

誰が見ても見やすいような提供



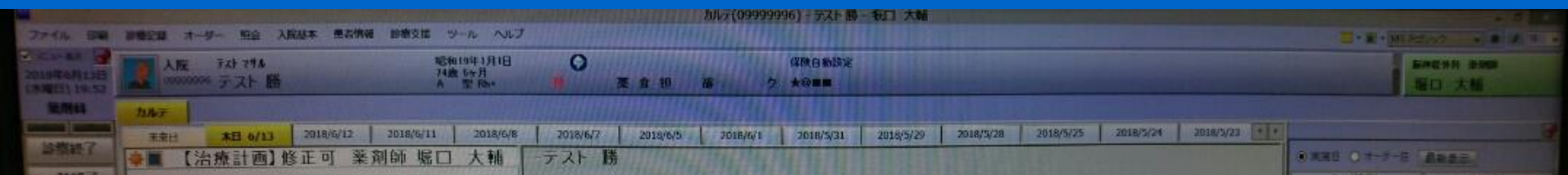
②PBP・M退院処方設計

PBP＝ 退院処方設計

M＝ その根拠の可視化

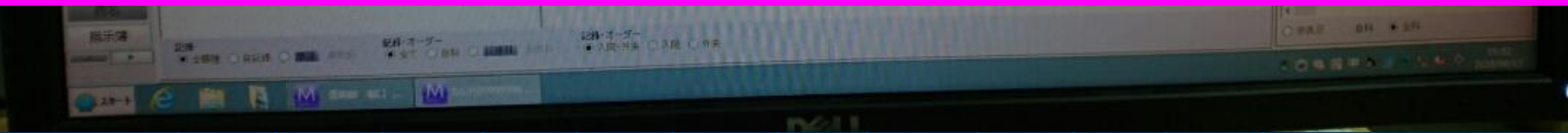
薬剤師と医師で処方設計したものをオーバーラップ





【〇〇Drへ】

2021年11月16日(火)自宅退院となります。今回、脳梗塞は初発にて入院中、バイアスピリン:100mg/day+クロピドグレル:75mg/dayのDAPT⇒退院処方ハクロピドグレル:75mg/dayのSAPTにて退院処方切ってます、また入院時より脳梗塞急性期にて持参降圧薬:ミカムロBPを中止⇒現在BP:160~180/90~100、HR:70前後より退院時より再開にて情報提供書作成致します。確認お願いします。堀口



①PBP・M定期処方設計

②PBP・M退院処方設計

・採血



・PBP・M

・持参薬評価



・PBP・M

・バイタル



・PBP・M

・メディカル的要素



・PBP・M

PBP・M処方設計するには4つのPBP・Mが必要



患者情報(Episode)の一元化

トピック

コンテンツ

2022年2月19日 土曜日) 10:47	入院 09999996 テスト 勝さん	78歳 1ヶ月 A 型 Rh+	感 薬 食 担 確 ク	【医 術センター】:2017年2月 PCI(ステント留置)施行 2018年4月2日現在 ステント血栓症一 AMI二次予防として⇒ハイアスリン:100mg/day継続 【心臓リハビリセンター】:2022年2月10日現在内服加療中⇒ロスバスタチンOD:5mg/day 【心臓リハビリセンター】:2022年2月10日現在内服・インシュリン加療中⇒オスルミシ:500mg/day(2回/回)、ジャスベア:50mg/day、インスリン・ラリキ:10U:21時 【心臓リハビリセンター】:2022年2月10日現在内服加療中⇒アコリカ:1.0mg/day 【脳神経外科病院】:1/1:入院 心臓リハビリ施行⇒血栓回収術施行⇒再開通 2/1:自宅退院 【脳神経外科病院】:1/1:入院 心臓リハビリ施行⇒血栓回収術施行⇒再開通 2/1:自宅退院 【脳神経外科病院】:1/1:入院 心臓リハビリ施行⇒血栓回収術施行⇒再開通 2/1:自宅退院 【脳神経外科病院】:1/1:入院 心臓リハビリ施行⇒血栓回収術施行⇒再開通 2/1:自宅退院
発症時期(年齢)	病名			コメント
92013年2月頃(69)	急性心筋梗塞			
92013年2月頃(69)	高脂血症			
92016年12月頃(72)	二型糖尿病			
92018年6月頃(74)	痛風			
92022年1月頃(78)	① 右中大脳動脈閉塞症(MCAO)			
92022年1月頃(78)	② 右中大脳動脈(MCA)領域梗塞			
92022年1月頃(78)	③ 心房細動			

何時

何故

何処で

何を

どの様に(薬)

後処理

時系列に4ヶ月で記録を記載

ルーチン業務の
標準化

患者情報の
アップデートの可視化

院外共有



PBP・M退院時薬剤情報共有(院外共有)

PBP＝ 患者情報(後処理)の完成

M＝ 退院時薬剤情報共有書の作成

薬剤師が作成した退院時薬剤情報共有書を
医師が監査する。



退院時薬剤情報共有書

- **全ての患者様**の退院時に薬剤情報共有書を作成します。
- **日本病院薬剤師会様式**を用います。
- **【お薬手帳】**をツールとします



週曜日	2022 年	2 月	1 期
-----	--------	-----	-----

[illegible]

【入院中:Story】:入院日から退院日までの流れ



退院時のおくすりについてのお知らせ

テスト 勝さん 様

退院日 2022 年 2 月 1 日

処方内容

■退院時に処方されるお薬と内容

1. リクシアナ00錠20mg (1回1錠/1日1回朝食後/14日分)
2. ビンプロロールフル酸塩錠2.5mg「トーワ」 (1回1錠/1日1回朝食後/14日分)
3. ロスバスタチン00錠2.5mg「四谷」 (1回1錠/ (持病薬より変更) 1日1回朝食後/14日分)
4. アロプリノール錠100mg「タナベ」 (1回1錠/ (持病薬より変更) 1日1回朝食後/14日分)
5. チネリズ00錠20mg (1回1錠/ (持病薬より変更) 1日1回朝食後/14日分)
6. メトホルミン塩酸塩錠250mg「トーワ」 (1回1錠/ (持病薬より変更) 1日3回夕食後/14日分)

■退院後の服薬上の注意点

【既往：History】

- ・ 既往時期不明：【メディカルセンター】：高血圧症に対し2022年1月1日現在門部施設中⇒ロスバスタチン00：2.5mg/day
- ・ 既往時期不明：【メディカルセンター】：虚血性心臓病に対し2022年1月1日現在門部施設中⇒フェブリク：100mg/day
- ・ 既往時期不明：【メディカルセンター】：二型糖尿病に対し2022年1月1日現在内服・インシュリン治療中⇒リヤスピア：50mg/day、メトホルミン：500mg/day(250mg/回)、インシュリングルバルギン：10単位/day (既服用中)
- ・ 2012年：【医療センター】：急性心筋梗塞 (AMI)にて入院。PCI (経皮的冠動脈形成術：ステント留置) 施行。2022年1月1日現在二次予防として⇒バイアスピリン：100mg/day継続中

【入院中：In-code】

- ・ 2022年1月1日：【千葉脳神経外科病院】：①右中大脳動脈閉塞症 (OCA)、②中大脳動脈 (OCA) 梗塞後右性癱瘓、③心原性肺動脈血栓症にて入院。入院時①に対し⇒tPA (ダルトゾ) 施行⇒血栓回収術施行⇒再開通。②⇒③に対し心原性肺動脈血栓二次予防として⇒リクシアナ00：30mg/day、Rateコントロールとして⇒ビンプロロール：2.5mg/day開始。また現在上記内服薬 (持病薬より変更) によるsymptomatic treatment (対症療法)

※2022年1月2日：心原性肺動脈血栓二次予防として (1/1：PLT：33.3) ⇒リクシアナ00：30mg/day開始 (心原性肺動脈血栓症)。Age：78、Sex：M、Scr：1.5、Cor：33.3、1/31：PLT：19.2、AMI に対するtPA 施行後5年、冠動脈の狭窄なしにてバイアスピリン終了

※2022年1月3日：心原性肺動脈に対するRateコントロールとして (HR：108拍分) ⇒ビンプロロール：2.5mg/day開始 (既服用：65拍分にて推移)

※2022年1月5日：高血圧症治療薬を持病薬より代替・変更⇒ロスバスタチン00：2.5mg/day (1/31：BP：165、TG：95)

※2022年1月8日：虚血性心臓病を持病薬より変更⇒アロプリノール：100mg/day (1/31：Hb：6.2)

※2022年1月8日：二型糖尿病治療薬を持病薬より一部変更⇒チネリズ00：20mg/day、メトホルミン：500mg/day(250mg/回)、ランタス錠：18単位/day/回 (既服用) (1/1：HbA1c：6.5、現在65拍分 (両室前)：100～120にて推移、1400kcal/day)

【既服用：Ex-code】

※2022年1月10日：腸胃薬治療に対し⇒ITP：50mg/day/回：1/30～1/31

■これまでのアレルギー、薬剤副作用歴の有無：無

- ・ 《メトホルミン》内服中：血糖値計測使用時前後40時間内服中止。

■退院にあたっての工夫等の留意点

- ・ 入院時：【医療センター】、【メディカルセンター】よりそれぞれ持病薬あり。入院時より全て中止とし、一部医師の方策にて変更。退院時よりインスリングルバルギンのみ再開と致します。持病薬の再開は別紙参照。

【入院中：In-code】

2022年1月1日より①右中大脳動脈閉塞症 (OCA)、②中大脳動脈 (OCA) 梗塞後右性癱瘓、③心原性肺動脈血栓症にて入院入院となり (68歳：M)。入院時①に対し⇒tPA (ダルトゾ) 施行⇒血栓回収術施行⇒再開通。②⇒③に対し1/1～1/7：エタラナゾリンを点滴療法、④⇒⑤に対し心原性肺動脈血栓二次予防として：リクシアナ00：30mg/day、Rateコントロールとして：ビンプロロール：2.5mg/day開始。また現在上記内服薬 (持病薬より変更) によるsymptomatic treatment (対症療法) を継続。その後入院時：【医療センター】、【メディカルセンター】よりそれぞれ持病薬があり、入院時より全て中止とし、一部医師の方策にて変更。退院時よりインスリングルバルギンのみ再開と致します。持病薬の再開は別紙参照。1/31：フォロ-Up MRIにて病状経過・増悪なく2/1：右性運動となります。 (eGFR：1)

1/31：経血結果 (単位省略)：AST：15、ALT：12、γ-GTP：8、BUN：16.2、Scr：1.5、Cor：33.3、電解質 (Na：136.8、K：3.8、Cl：102.5)、Hb：6.2、TP：105、TG：95、PLT：19.2、A1c：6.5、1400kcal/day 1/1：HbA1c：6.5、また現在BP：150拍分/65拍分、HR：65拍分にて推移しております。腎臓病・血圧管理を含む今後の門部的外科への継続を希望しております。

※退院後薬剤師会様にて一斉変更

病院名： 社会医療法人社団 千葉脳神経外科病院

担当薬剤師：

住 所： 千葉県千葉市緑区 長沼原町400番地

TEL： 043-259-1208



処方内容

■退院時にお持ち帰りになるお薬と内容

1. リクシアナ00錠30mg (1回1錠/1日1回朝食後/14日分)
2. ビソプロロールフルマル酸塩錠2.5mg「トーワ」(1回1錠/1日1回朝食後/14日分)
3. ロスバスタチン00錠2.5mg「DSEP」(1回1錠/【持参薬より変更】1日1回朝食後/14日分)
4. アロプリノール錠100mg「タナベ」(1回1錠/【持参薬より変更】1日1回朝食後/14日分)
5. テネリア00錠20mg (1回1錠/【持参薬より変更】1日1回朝食後/14日分)
6. メトホルミン塩酸塩錠250mgMF「トーワ」(1回1錠/【持参薬より変更】1日2回朝夕食後/14日分)

持参薬より代替・変更



退院時のおくすりについてのお知らせ

テスト 勝さん 様

退院日 2022 年 2 月 1 日

- ・入院時や退院時におけるあなたのおくすりに関する特に説明を必要とする点や注意点についてお知らせします。
- ・調剤を受ける薬局や医師・診療所などにかかられるとき持参すると、あなたのおくすりに関する情報を伝えることができます。

【既往:History】と【入院中:Episode】

4. アロプリノール錠100mg (心臓病) 1日1回朝食後/14日分)	5. チェリア06錠20mg (心臓病) 1日1回朝食後/14日分)	6. メトホルミン塩酸塩錠500mg (糖尿病) 1日3回朝食後/14日分)
■退院後の生活上の注意点		
【既往:History】		
・ 既往時期不明:【メディカルセンター】:高脂血症に対し2022年1月1日現在内服治療中⇒ロスタスタチン60/2.5mg/day		
・ 既往時期不明:【メディカルセンター】:高血圧に対し2022年1月1日現在内服治療中⇒フェブリク:100mg/day		
・ 既往時期不明:【メディカルセンター】:二型糖尿病に対し2022年1月1日現在内服・インシュリン治療中⇒リクスピア:50mg/day、メトホルミン:500mg/day(250mg/回)、インシュリングルグルン:10単位/day (既服用中)		
・ 2012年:【医療センター】:急性心筋梗塞 (AMI)にて入院、PCI (経皮的冠動脈形成術:ステント留置) 施行、2022年1月1日現在二次予防として⇒バイアスピリン:100mg/day継続中		
【入院中:Episode】		
・ 2022年1月1日:【千葉脳神経外科病院】:①右中脳脳動脈瘤 (RCM)、②中脳脳動脈 (OCM) 破裂動脈性梗塞、③心原性脳動脈硬化にて入院、入院時①に対し⇒tPA (ダルトロ) 施行⇒血栓回収術施行⇒再発、②③に対し心原性脳梗塞二次予防として⇒リクスピア60:30mg/day、Rataコントロールとして⇒ビンプロロール:2.5mg/day開始、また現在上記内服薬 (持参薬より変更) によるsymptomatic treatment (対症療法)		
2022年1月2日:心原性脳梗塞二次予防として (1/1:PLT:20.3) ⇒リクスピア60:30mg/day開始 (心原性脳梗塞)、Age:78、W:75kg、Ser:1.5、Cor:33.3、1/31:PLT:19.2、AMIに対するtPA施行後5年、冠動脈の狭窄なしにてバイアスピリン終了		
2022年1月3日:心原性脳梗塞に対するRataコントロールとして 60mg/100前後) ⇒ビンプロロール:2.5mg/day開始 (既服用:60前後にて推移)		
2022年1月5日:高脂血症治療薬を持参薬より代替・変更⇒ロスタスタチン60:2.5mg/day (1/31:TP:185、TG:95)		
2022年1月8日:高血圧薬を持参薬より変更⇒アロプリノール:100mg/day(1/31:BP:6.2)		
2022年1月8日:二型糖尿病治療薬を持参薬より一部変更⇒チネリア60:20mg/day、メトホルミン:500mg/day(250mg/回)、リクスピア:10単位/day/回 (既服用) (1/1:PG4216:6.5、現在65前後 (両食前):100〜130にて推移、1400Kcal/day)		
【既服用:Episode】		
2022年1月10日:脳動脈瘤に対し⇒tPA:50mg/day/回:1/30〜1/12		
■これまで処方された薬・薬剤師からの指導・指示		
・《メトホルミン》内服中:血糖値測定時前後40時間内服中止。		
■調剤にあたっての工夫等の留意点		
・入院時:【医療センター】、【メディカルセンター】よりそれぞれ持参薬あり、入院時より全て中止とし、一部医師の方策にて変更、退院時よりインスリングルグルンのみ再開と致します。持参薬の調剤は別紙参照。		
【入院中:Episode】		
2022年1月1日より①右中脳脳動脈瘤 (RCM)、②中脳脳動脈 (OCM) 破裂動脈性梗塞、③心原性脳動脈硬化にて入院入院となり (60mg/3)、入院時①に対し⇒tPA (ダルトロ) 施行⇒血栓回収術施行⇒再発、②③に対し:1/1〜1/7:エタララシ注を点滴療法、④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿㏀㏁㏂㏃㏄㏅㏆㏇㏈㏉㏊㏋㏌㏍㏎㏏㏐㏑㏒㏓㏔㏕㏖㏗㏘㏙㏚㏛㏜㏝㏞㏟㏠㏡㏢㏣㏤㏥㏦㏧㏨㏩㏪㏫㏬㏭㏮㏯㏰㏱㏲㏳㏴㏵㏶㏷㏸㏹㏺㏻㏼㏽㏾㏿㐀㐁㐂㐃㐄㐅㐆㐇㐈㐉㐊㐋㐌㐍㐎㐏㐐㐑㐒㐓㐔㐕㐖㐗㐘㐙㐚㐛㐜㐝㐞㐟㐠㐡㐢㐣㐤㐥㐦㐧㐨㐩㐪㐫㐬㐭㐮㐯㐰㐱㐲㐳㐴㐵㐶㐷㐸㐹㐺㐻㐼㐽㐾㐿㑀㑁㑂㑃㑄㑅㑆㑇㑈㑉㑊㑋㑌㑍㑎㑏㑐㑑㑒㑓㑔㑕㑖㑗㑘㑙㑚㑛㑜㑝㑞㑟㑠㑡㑢㑣㑤㑥㑦㑧㑨㑩㑪㑫㑬㑭㑮㑯㑰㑱㑲㑳㑴㑵㑶㑷㑸㑹㑺㑻㑼㑽㑾㑿㒀㒁㒂㒃㒄㒅㒆㒇㒈㒉㒊㒋㒌㒍㒎㒏㒐㒑㒒㒓㒔㒕㒖㒗㒘㒙㒚㒛㒜㒝㒞㒟㒠㒡㒢㒣㒤㒥㒦㒧㒨㒩㒪㒫㒬㒭㒮㒯㒰㒱㒲㒳㒴㒵㒶㒷㒸㒹㒺㒻㒼㒽㒾㒿㓀㓁㓂㓃㓄㓅㓆㓇㓈㓉㓊㓋㓌㓍㓎㓏㓐㓑㓒㓓㓔㓕㓖㓗㓘㓙㓚㓛㓜㓝㓞㓟㓠㓡㓢㓣㓤㓥㓦㓧㓨㓩㓪㓫㓬㓭㓮㓯㓰㓱㓲㓳㓴㓵㓶㓷㓸㓹㓺㓻㓼㓽㓾㓿㔀㔁㔂㔃㔄㔅㔆㔇㔈㔉㔊㔋㔌㔍㔎㔏㔐㔑㔒㔓㔔㔕㔖㔗㔘㔙㔚㔛㔜㔝㔞㔟㔠㔡㔢㔣㔤㔥㔦㔧㔨㔩㔪㔫㔬㔭㔮㔯㔰㔱㔲㔳㔴㔵㔶㔷㔸㔹㔺㔻㔼㔽㔾㔿㕀㕁㕂㕃㕄㕅㕆㕇㕈㕉㕊㕋㕌㕍㕎㕏㕐㕑㕒㕓㕔㕕㕖㕗㕘㕙㕚㕛㕜㕝㕞㕟㕠㕡㕢㕣㕤㕥㕦㕧㕨㕩㕪㕫㕬㕭㕮㕯㕰㕱㕲㕳㕴㕵㕶㕷㕸㕹㕺㕻㕼㕽㕾㕿㖀㖁㖂㖃㖄㖅㖆㖇㖈㖉㖊㖋㖌㖍㖎㖏㖐㖑㖒㖓㖔㖕㖖㖗㖘㖙㖚㖛㖜㖝㖞㖟㖠㖡㖢㖣㖤㖥㖦㖧㖨㖩㖪㖫㖬㖭㖮㖯㖰㖱㖲㖳㖴㖵㖶㖷㖸㖹㖺㖻㖼㖽㖾㖿㗀㗁㗂㗃㗄㗅㗆㗇㗈㗉㗊㗋㗌㗍㗎㗏㗐㗑㗒㗓㗔㗕㗖㗗㗘㗙㗚㗛㗜㗝㗞㗟㗠㗡㗢㗣㗤㗥㗦㗧㗨㗩㗪㗫㗬㗭㗮㗯㗰㗱㗲㗳㗴㗵㗶㗷㗸㗹㗺㗻㗼㗽㗾㗿㘀㘁㘂㘃㘄㘅㘆㘇㘈㘉㘊㘋㘌㘍㘎㘏㘐㘑㘒㘓㘔㘕㘖㘗㘘㘙㘚㘛㘜㘝㘞㘟㘠㘡㘢㘣㘤㘥㘦㘧㘨㘩㘪㘫㘬㘭㘮㘯㘰㘱㘲㘳㘴㘵㘶㘷㘸㘹㘺㘻㘼㘽㘾㘿㙀㙁㙂㙃㙄㙅㙆㙇㙈㙉㙊㙋㙌㙍㙎㙏㙐㙑㙒㙓㙔㙕㙖㙗㙘㙙㙚㙛㙜㙝㙞㙟㙠㙡㙢㙣㙤㙥㙦㙧㙨㙩㙪㙫㙬㙭㙮㙯㙰㙱㙲㙳㙴㙵㙶㙷㙸㙹㙺㙻㙼㙽㙾㙿㚀㚁㚂㚃㚄㚅㚆㚇㚈㚉㚊㚋㚌㚍㚎㚏㚐㚑㚒㚓㚔㚕㚖㚗㚘㚙㚚㚛㚜㚝㚞㚟㚠㚡㚢㚣㚤㚥㚦㚧㚨㚩㚪㚫㚬㚭㚮㚯㚰㚱㚲㚳㚴㚵㚶㚷㚸㚹㚺㚻㚼㚽㚾㚿㜀㜁㜂㜃㜄㜅㜆㜇㜈㜉㜊㜋㜌㜍㜎㜏㜐㜑㜒㜓㜔㜕㜖㜗㜘㜙㜚㜛㜜㜝㜞㜟㜠㜡㜢㜣㜤㜥㜦㜧㜨㜩㜪㜫㜬㜭㜮㜯㜰㜱㜲㜳㜴㜵㜶㜷㜸㜹㜺㜻㜼㜽㜾㜿㝀㝁㝂㝃㝄㝅㝆㝇㝈㝉㝊㝋㝌㝍㝎㝏㝐㝑㝒㝓㝔㝕㝖㝗㝘㝙㝚㝛㝜㝝㝞㝟㝠㝡㝢㝣㝤㝥㝦㝧㝨㝩㝪㝫㝬㝭㝮㝯㝰㝱㝲㝳㝴㝵㝶㝷㝸㝹㝺㝻㝼㝽㝾㝿㞀㞁㞂㞃㞄㞅㞆㞇㞈㞉㞊㞋㞌㞍㞎㞏㞐㞑㞒㞓㞔㞕㞖㞗㞘㞙㞚㞛㞜㞝㞞㞟㞠㞡㞢㞣㞤㞥㞦㞧㞨㞩㞪㞫㞬㞭㞮㞯㞰㞱㞲㞳㞴㞵㞶㞷㞸㞹㞺㞻㞼㞽㞾㞿㟀㟁㟂㟃㟄㟅㟆㟇㟈㟉㟊㟋㟌㟍㟎㟏㟐㟑㟒㟓㟔㟕㟖㟗㟘㟙㟚㟛㟜㟝㟞㟟㟠㟡㟢㟣㟤㟥㟦㟧㟨㟩㟪㟫㟬㟭㟮㟯㟰㟱㟲㟳㟴㟵㟶㟷㟸㟹㟺㟻㟼㟽㟾㟿㠀㠁㠂㠃㠄㠅㠆㠇㠈㠉㠊㠋㠌㠍㠎㠏㠐㠑㠒㠓㠔㠕㠖㠗㠘㠙㠚㠛㠜㠝㠞㠟㠠㠡㠢㠣㠤㠥㠦㠧㠨㠩㠪㠫㠬㠭㠮㠯㠰㠱㠲㠳㠴㠵㠶㠷㠸㠹㠺㠻㠼㠽㠾㠿㡀㡁㡂㡃㡄㡅㡆㡇㡈㡉㡊㡋㡌㡍㡎㡏㡐㡑㡒㡓㡔㡕㡖㡗㡘㡙㡚㡛㡜㡝㡞㡟㡠㡡㡢㡣㡤㡥㡦㡧㡨㡩㡪㡫㡬㡭㡮㡯㡰㡱㡲㡳㡴㡵㡶㡷㡸㡹㡺㡻㡼㡽㡾㡿㢀㢁㢂㢃㢄㢅㢆㢇㢈㢉㢊㢋㢌㢍㢎㢏㢐㢑㢒㢓㢔㢕㢖㢗㢘㢙㢚㢛㢜㢝㢞㢟㢠㢡㢢㢣㢤㢥㢦㢧㢨㢩㢪㢫㢬㢭㢮㢯㢰㢱㢲㢳㢴㢵㢶㢷㢸㢹㢺㢻㢼㢽㢾㢿㣀㣁㣂㣃㣄㣅㣆㣇㣈㣉㣊㣋㣌㣍㣎㣏㣐㣑㣒㣓㣔㣕㣖㣗㣘㣙㣚㣛㣜㣝㣞㣟㣠㣡㣢㣣㣤㣥㣦㣧㣨㣩㣪㣫㣬㣭㣮㣯㣰㣱㣲㣳㣴㣵㣶㣷㣸㣹㣺㣻㣼㣽㣾㣿㤀㤁㤂㤃㤄㤅㤆㤇㤈㤉㤊㤋㤌㤍㤎㤏㤐㤑㤒㤓㤔㤕㤖㤗㤘㤙㤚㤛㤜㤝㤞㤟㤠㤡㤢㤣㤤㤥㤦㤧㤨㤩㤪㤫㤬㤭㤮㤯㤰㤱㤲㤳㤴㤵㤶㤷㤸㤹㤺㤻㤼㤽㤾㤿㥀㥁㥂㥃㥄㥅㥆㥇㥈㥉㥊㥋㥌㥍㥎㥏㥐㥑㥒㥓㥔㥕㥖㥗㥘㥙㥚㥛㥜㥝㥞㥟㥠㥡㥢㥣㥤㥥㥦㥧㥨㥩㥪㥫㥬㥭㥮㥯㥰㥱㥲㥳㥴㥵㥶㥷㥸㥹㥺㥻㥼㥽㥾㥿㦀㦁㦂㦃㦄㦅㦆㦇㦈㦉㦊㦋㦌㦍㦎㦏㦐㦑㦒㦓㦔㦕㦖㦗㦘㦙㦚㦛㦜㦝㦞㦟㦠㦡㦢㦣㦤㦥㦦㦧㦨㦩㦪㦫㦬㦭㦮㦯㦰㦱㦲㦳㦴㦵㦶㦷㦸㦹㦺㦻㦼㦽㦾㦿㧀㧁㧂㧃㧄㧅㧆㧇㧈㧉㧊㧋㧌㧍㧎㧏㧐㧑㧒㧓㧔㧕㧖㧗㧘㧙㧚㧛㧜㧝㧞㧟㧠㧡㧢㧣㧤㧥㧦㧧㧨㧩㧪㧫㧬㧭㧮㧯㧰㧱㧲㧳㧴㧵㧶㧷㧸㧹㧺㧻㧼㧽㧾㧿㨀㨁㨂㨃㨄㨅㨆㨇㨈㨉㨊㨋㨌㨍㨎㨏㨐㨑㨒㨓㨔㨕㨖㨗㨘㨙㨚㨛㨜㨝㨞㨟㨠㨡㨢㨣㨤㨥㨦㨧㨨㨩㨪㨫㨬㨭㨮㨯㨰㨱㨲㨳㨴㨵㨶㨷㨸㨹㨺㨻㨼㨽㨾㨿㩀㩁㩂㩃㩄㩅㩆㩇㩈㩉㩊㩋㩌㩍㩎㩏㩐㩑㩒㩓㩔㩕㩖㩗㩘㩙㩚㩛㩜㩝㩞㩟㩠㩡㩢㩣㩤㩥㩦㩧㩨㩩㩪㩫㩬㩭㩮㩯㩰㩱㩲㩳㩴㩵㩶㩷㩸㩹㩺㩻㩼㩽㩾㩿㪀㪁㪂㪃㪄㪅㪆㪇㪈㪉㪊㪋㪌㪍㪎㪏㪐㪑㪒㪓㪔㪕㪖㪗㪘㪙㪚㪛㪜㪝㪞㪟㪠㪡㪢㪣㪤㪥㪦㪧㪨㪩㪪㪫㪬㪭㪮㪯㪰㪱㪲㪳㪴㪵㪶㪷㪸㪹㪺㪻㪼㪽㪾㪿㫀㫁㫂㫃㫄㫅㫆㫇㫈㫉㫊㫋㫌㫍㫎㫏㫐㫑㫒㫓㫔㫕㫖㫗㫘㫙㫚㫛㫜㫝㫞㫟㫠㫡㫢㫣㫤㫥㫦㫧㫨㫩㫪㫫㫬㫭㫮㫯㫰㫱㫲㫳㫴㫵㫶㫷㫸㫹㫺㫻㫼㫽㫾㫿㬀㬁㬂㬃㬄㬅㬆㬇㬈㬉㬊㬋㬌㬍㬎㬏㬐㬑㬒㬓㬔㬕㬖㬗㬘㬙㬚㬛㬜㬝㬞㬟㬠㬡㬢㬣㬤㬥㬦㬧㬨㬩㬪㬫㬬㬭㬮㬯㬰㬱㬲㬳㬴㬵㬶㬷㬸㬹㬺㬻㬼㬽㬾㬿㭀㭁㭂㭃㭄㭅㭆㭇㭈㭉㭊㭋㭌㭍㭎㭏㭐㭑㭒㭓㭔㭕㭖㭗㭘㭙㭚㭛㭜㭝㭞㭟㭠㭡㭢㭣㭤㭥㭦㭧㭨㭩㭪㭫㭬㭭㭮㭯㭰㭱㭲㭳㭴㭵㭶㭷㭸㭹㭺㭻㭼㭽㭾㭿㮀㮁㮂㮃㮄㮅㮆㮇㮈㮉㮊㮋㮌㮍㮎㮏㮐㮑㮒㮓㮔㮕㮖㮗㮘㮙㮚㮛㮜㮝㮞㮟㮠㮡㮢㮣㮤㮥㮦㮧㮨㮩㮪㮫㮬㮭㮮㮯㮰㮱㮲㮳㮴㮵㮶㮷㮸㮹㮺㮻㮼㮽㮾㮿㯀㯁㯂㯃㯄㯅㯆㯇㯈㯉㯊㯋㯌㯍㯎㯏㯐㯑㯒㯓㯔㯕㯖㯗㯘㯙㯚㯛㯜㯝㯞㯟㯠㯡㯢㯣㯤㯥㯦㯧㯨㯩㯪㯫㯬㯭㯮㯯㯰㯱㯲㯳㯴㯵㯶㯷㯸㯹㯺㯻㯼㯽㯾㯿㰀㰁㰂㰃㰄㰅㰆㰇㰈㰉㰊㰋㰌㰍㰎㰏㰐㰑㰒㰓㰔㰕㰖㰗㰘㰙㰚㰛㰜㰝㰞㰟㰠㰡㰢㰣㰤㰥㰦㰧㰨㰩㰪㰫㰬㰭㰮㰯㰰㰱㰲㰳㰴㰵㰶㰷㰸㰹㰺㰻㰼㰽㰾㰿㱀㱁㱂㱃㱄㱅㱆㱇㱈㱉㱊㱋㱌㱍㱎㱏㱐㱑㱒㱓㱔㱕㱖㱗㱘㱙㱚㱛㱜㱝㱞㱟㱠㱡㱢㱣㱤㱥㱦㱧㱨㱩㱪㱫㱬㱭㱮㱯㱰㱱㱲㱳㱴㱵㱶㱷㱸㱹㱺㱻㱼㱽㱾㱿㲀㲁㲂㲃㲄㲅㲆㲇㲈㲉㲊㲋㲌㲍㲎㲏㲐㲑㲒㲓㲔㲕㲖㲗㲘㲙㲚㲛㲜㲝㲞㲟㲠㲡㲢㲣㲤㲥㲦㲧㲨㲩㲪㲫㲬㲭㲮㲯㲰㲱㲲㲳㲴㲵㲶㲷㲸㲹㲺㲻㲼㲽㲾㲿㳀㳁㳂㳃㳄㳅㳆㳇㳈㳉㳊㳋㳌㳍㳎㳏㳐㳑㳒㳓㳔㳕㳖㳗㳘㳙㳚㳛㳜㳝㳞㳟㳠㳡㳢㳣㳤㳥㳦㳧㳨㳩㳪㳫㳬㳭㳮㳯㳰㳱㳲㳳㳴㳵㳶㳷㳸㳹㳺㳻㳼㳽㳾㳿㴀㴁㴂㴃㴄㴅㴆㴇㴈㴉㴊㴋㴌㴍㴎㴏㴐㴑㴒㴓㴔㴕㴖㴗㴘㴙㴚㴛㴜㴝㴞㴟㴠㴡㴢㴣㴤㴥㴦㴧㴨㴩㴪㴫㴬㴭㴮㴯㴰㴱㴲㴳㴴㴵㴶㴷㴸㴹㴺㴻㴼㴽㴾㴿㵀㵁㵂㵃㵄㵅㵆㵇㵈㵉㵊㵋㵌㵍㵎㵏㵐㵑㵒㵓㵔㵕㵖㵗㵘㵙㵚㵛㵜㵝㵞㵟㵠㵡㵢㵣㵤㵥㵦㵧㵨㵩㵪㵫㵬㵭㵮㵯㵰㵱㵲㵳㵴㵵㵶㵷㵸㵹㵺㵻㵼㵽㵾㵿㶀㶁㶂㶃㶄㶅㶆㶇㶈㶉㶊㶋㶌㶍㶎㶏㶐㶑㶒㶓㶔㶕㶖㶗㶘㶙㶚㶛㶜㶝㶞㶟㶠㶡㶢㶣㶤㶥㶦㶧㶨㶩㶪㶫㶬㶭㶮㶯㶰㶱㶲㶳㶴㶵㶶㶷㶸㶹㶺㶻㶼㶽㶾㶿㷀㷁㷂㷃㷄㷅㷆㷇㷈㷉㷊㷋㷌㷍㷎㷏㷐㷑㷒㷓㷔㷕㷖㷗㷘㷙㷚㷛㷜㷝㷞㷟㷠㷡㷢㷣㷤㷥㷦㷧㷨㷩㷪㷫㷬㷭㷮㷯㷰㷱㷲㷳㷴㷵㷶㷷㷸㷹㷺㷻㷼㷽㷾㷿㸀㸁㸂㸃㸄㸅㸆㸇㸈㸉㸊㸋㸌㸍㸎㸏㸐㸑㸒㸓㸔㸕㸖㸗㸘㸙㸚㸛㸜㸝㸞㸟㸠㸡㸢㸣㸤㸥㸦㸧㸨㸩㸪㸫㸬㸭㸮㸯㸰㸱㸲㸳㸴㸵㸶㸷㸸㸹㸺㸻㸼㸽㸾㸿㹀㹁㹂㹃㹄㹅㹆㹇㹈㹉㹊㹋㹌㹍㹎㹏㹐㹑㹒㹓㹔㹕㹖㹗㹘㹙㹚㹛㹜㹝㹞㹟㹠㹡㹢㹣㹤㹥㹦㹧㹨㹩㹪㹫㹬㹭㹮㹯㹰㹱㹲㹳㹴㹵㹶㹷㹸㹹㹺㹻㹼㹽㹾㹿㺀㺁㺂㺃㺄㺅㺆㺇㺈㺉㺊㺋㺌㺍㺎㺏㺐㺑㺒㺓㺔㺕㺖㺗㺘㺙㺚㺛㺜㺝㺞㺟㺠㺡㺢㺣㺤㺥㺦㺧㺨㺩㺪㺫㺬㺭㺮㺯㺰㺱㺲㺳㺴㺵㺶㺷㺸㺹㺺㺻㺼㺽㺾㺿㻀㻁㻂㻃㻄㻅㻆㻇㻈㻉㻊㻋㻌㻍㻎㻏㻐㻑㻒㻓㻔㻕㻖㻗㻘㻙㻚㻛㻜㻝㻞㻟㻠㻡㻢㻣㻤㻥㻦㻧㻨㻩㻪㻫㻬㻭㻮㻯㻰㻱㻲㻳㻴㻵㻶㻷㻸㻹㻺㻻㻼㻽㻾㻿㼀㼁㼂㼃㼄㼅㼆㼇㼈㼉㼊㼋㼌㼍㼎㼏㼐㼑㼒㼓㼔㼕㼖㼗㼘㼙㼚㼛㼜㼝㼞㼟㼠㼡㼢㼣㼤㼥㼦㼧㼨㼩㼪㼫㼬㼭㼮㼯㼰㼱㼲㼳㼴㼵㼶㼷㼸㼹㼺㼻㼼㼽㼾㼿㽀㽁㽂㽃㽄㽅㽆㽇㽈㽉㽊㽋㽌㽍㽎㽏㽐㽑㽒㽓㽔㽕㽖㽗㽘㽙㽚㽛㽜㽝㽞㽟㽠㽡㽢㽣㽤㽥㽦㽧㽨㽩㽪㽫㽬㽭㽮㽯㽰㽱㽲㽳㽴㽵㽶㽷㽸㽹㽺㽻㽼㽽㽾㽿㿀㿁㿂㿃㿄㿅㿆㿇㿈㿉㿊㿋㿌㿍㿎㿏㿐㿑㿒㿓㿔㿕㿖㿗㿘㿙㿚㿛㿜㿝㿞㿟㿠㿡㿢㿣㿤㿥㿦㿧㿨㿩㿪㿫㿬㿭㿮㿯㿰㿱㿲㿳㿴㿵㿶㿷㿸㿹㿺㿻㿼㿽㿾㿿㺀㺁㺂㺃㺄㺅㺆㺇㺈㺉㺊㺋㺌㺍㺎㺏㺐㺑㺒㺓㺔㺕㺖㺗㺘㺙㺚㺛㺜㺝㺞㺟㺠㺡㺢㺣㺤㺥㺦㺧㺨㺩㺪㺫㺬㺭㺮㺯㺰㺱㺲㺳㺴㺵㺶㺷㺸㺹㺺㺻㺼㺽㺾㺿㻀㻁㻂㻃㻄㻅㻆㻇㻈㻉㻊㻋㻌㻍㻎㻏㻐㻑㻒㻓㻔㻕㻖㻗㻘㻙㻚㻛㻜㻝㻞㻟㻠㻡㻢㻣㻤㻥㻦㻧㻨㻩㻪㻫㻬㻭㻮㻯㻰㻱㻲㻳㻴㻵㻶㻷㻸㻹㻺㻻㻼㻽㻾㻿㼀㼁㼂㼃㼄㼅㼆㼇㼈㼉㼊㼋㼌㼍㼎㼏㼐㼑㼒㼓㼔㼕㼖㼗㼘㼙㼚㼛㼜㼝㼞㼟㼠㼡㼢㼣㼤㼥㼦㼧㼨㼩㼪㼫㼬㼭㼮㼯㼰㼱㼲㼳㼴㼵㼶㼷㼸㼹㼺㼻㼼㼽㼾㼿㽀㽁㽂㽃㽄㽅㽆㽇㽈㽉㽊㽋㽌㽍㽎㽏㽐㽑㽒㽓㽔㽕㽖㽗㽘㽙㽚㽛㽜㽝㽞㽟㽠㽡㽢㽣㽤㽥㽦㽧㽨㽩㽪㽫㽬㽭㽮㽯㽰㽱㽲㽳㽴㽵㽶㽷㽸㽹㽺㽻㽼㽽㽾㽿㿀㿁㿂㿃㿄㿅㿆㿇㿈㿉㿊㿋㿌㿍㿎㿏㿐㿑㿒㿓㿔㿕㿖㿗㿘㿙㿚㿛㿜㿝㿞㿟㿠㿡㿢㿣㿤㿥㿦㿧㿨㿩㿪㿫㿬㿭㿮㿯㿰㿱㿲㿳㿴㿵㿶㿷㿸㿹㿺㿻㿼㿽㿾㿿)		

※本退院票調剤依頼書は調剤薬局へ一紙変更

病院名: 社会医療法人社団 千葉脳神経外科病院 提出薬剤師:
 住 所: 千葉県千葉市緑区 長沼原町400番地 TEL: 043-259-1208



【既往:History】と【入院中:Episode】

■退院後の服薬上の注意点

【既往:History】

- ・発症時期不明:【メディカルセンター】:高脂血症に対し2022年1月1日現在内服加療中⇒ロスバスタチン00:2.5mg/day
- ・発症時期不明:【メディカルセンター】:高脂血症に対し2022年1月1日現在内服加療中⇒シロスタチン加療中⇒シロスタチン00:10mg/day
- ・発症時期不明:【メディカルセンター】:高脂血症に対し2022年1月1日現在内服加療中⇒シロスタチン加療中⇒シロスタチン00:10mg/day
- ・2017年【医療センター】:急性心筋梗塞(AMI)にて入院、PCI(経皮的冠動脈形成術:ステント留置)施行、2022年1月1日現在二次予防として⇒バイアスピリン:100mg/day継続中

時系列に4W1Hにて記載

【入院中:Episode】

- ・2022年1月1日:【千葉脳神経外科病院】:①右中太脳動脈閉塞症(MCAO)、②中太脳動脈(MCA)領域散在性梗塞、③心房細動にて入院、入院時①に対し⇒t-PA(グルトバ)施行⇒血栓回収術施行⇒再開通、②・③に対し心原性脳塞栓症二次予防として⇒リクシアナ00:30mg/day、Rateコントロールとして⇒ビソプロロール:2.5mg/day開始、また現在上記内服薬(持参薬より変更)によるsymptomatic treatment(対処療法)

*2022年1月2日:心原性脳塞栓症二次予防として(1/1:PLT:20.3)⇒リクシアナ00:30mg/day開始(心房細動(+))、Age:78、Wt:58kg、Scr:1.5、Cor:33.8、1/31:PT:19.2、APTT:35.5、血糖値:150mg/dl、血圧:135/85mmHg、心動脈の狭窄なし

にてバイアスピリン100mg/day開始(1/31:UA:6.2)

*2022年1月3日:高脂血症治療薬を持参薬より代替・変更⇒ロスバスタチン00:2.5mg/day(1/31:TP:185、TG:95)

*2022年1月3日:痛風治療薬を持参薬より変更⇒コキシブ00:100mg/day(1/31:UA:6.2)

*2022年1月3日:二型糖尿病治療薬を持参薬より変更⇒メトホルミン:500mg/day(250mg/回)、ランタス注:10単位/day/回(1/31:HbA1c:6.5、現在BS3検査(無食前):100~130にて推移)

【抗生剤:Ep】

*2022年1月10日:尿路感染症に対し⇒STFX:50mg/day/回:17/10~17/12

各々の薬の処方理由と結果

薬剤師

ファーマシューティカルケアの可視化



【History】と【入院中Episode】

■退院後の服薬上の注意点

【既往：History】

- ・発症時期不明：【メディカルセンター】：高脂血症に対し2022年1月1日現在内服加療中⇒ロスバスタチン00：2.5mg/day
- ・発症時期不明：【メディカルセンター】：痛風に対し2022年1月1日現在内服加療中⇒フェブリク：10mg/day
- ・発症時期不明：【メディカルセンター】：二型糖尿病に対し2022年1月1日現在内服・インシュリン加療中⇒ジャヌビア：50mg/day、メトホルミン：500mg/day(250mg/回)、インシュリングルルギン：10単位/day(就寝前im)
- ・2017年：【医療センター】：急性心筋梗塞(AMI)にて入院、PCI(経皮的冠動脈形成術：ステント留置)施行、2022年1月1日現在二次予防として⇒バイアスピリン：100mg/day継続中

【入院中：Episode】

- ・2022年1月1日：【千葉脳神経外科病院】：①右中大脳動脈閉塞症(MCAO)、②中大脳動脈(MCA)領域散在性梗塞、③心房細動にて入院。入院時①に対し⇒t-PA(グルトパ)施行⇒血栓回収術施行⇒再開通、②・③に対し心原性脳塞栓症二次予防として⇒リクシアナ00：30mg/day、Rateコントロールとして⇒ビソプロロール：2.5mg/day開始、また現在上記内服薬(持参薬より変更)によるsymptomatic treatment(対処療法)

*2022年1月2日：心原性脳塞栓症二次予防として(1/1：PLT：20.3)⇒リクシアナ00：30mg/day開始(心房細動(+)、Age：78、WT：58kg、Scr：1.5、Cor：33.3、1/31：PLT：19.2、AMIに対するPCI施行後5年、冠動脈の狭窄なしにてバイアスピリン終了)

*2022年1月3日：心房細動に対するRateコントロールとして(HR：100前後)⇒ビソプロロール：2.5mg/day開始(現在HR：65前後にて推移)

*2022年1月3日：高脂血症治療薬を持参薬より代替・変更⇒ロスバスタチン00：2.5mg/day(1/31：TP：185、TG：95)

*2022年

*2022年1月10日：尿路感染症に対し⇒STFX：50mg/day/回：1/10～1/12
メトホルミン：500mg/day(250mg/回)継続中、インシュリングルルギン：100～130にて推移)

【抗生剤：Episode】：入院中の抗生剤使用理由

【抗生剤：Episode】

*2022年1月10日：尿路感染症に対し⇒STFX：50mg/day/回：1/10～1/12

ICT・AST



退院時のおくすりについてのお知らせ

テスト 勝さん 様

退院日 2022 年 2 月 1 日

- ・入院時や退院時におけるあなたのおくすりに関する特に説明を必要とする点や注意点についてお知らせします。
- ・調剤を受ける薬局や医師・診療所などにかかられるとき持参すると、あなたのおくすりに関する情報を伝えることができます。

■退院時にお持ち帰りになるお薬と内容

1. リクシアナ00錠20mg (1回1錠/1日1回朝食後/14日分)
2. ビンプロロールフル酸塩錠2.5mg「トーワ」 (1回1錠/1日1回朝食後/14日分)
3. ロスバスタチン00錠2.5mg「タケ」 (1回1錠/ (持参薬より変更) 1日1回朝食後/14日分)
4. アロプリノール錠100mg「タケ」 (1回1錠/ (持参薬より変更) 1日1回朝食後/14日分)
5. テルリア00錠20mg (1回1錠/ (持参薬より変更) 1日1回朝食後/14日分)
6. メトホルミン塩酸塩錠250mg「トーワ」 (1回1錠/ (持参薬より変更) 1日3回朝食後/14日分)

■退院後の服薬上の注意点

【既往: History】

- ・服薬時間不明: 【メディカルセンター】: 高脂血症に対し2022年1月1日現在内服投与中⇒ロスバスタチン00: 2.5mg/day
- ・服薬時間不明: 【メディカルセンター】: 高血圧に対し2022年1月1日現在内服投与中⇒フェブリク: 100mg/day
- ・服薬時間不明: 【メディカルセンター】: 二重肺炎に対し2022年1月1日現在内服・インシュリン投与中⇒リヤスピア: 50mg/day、メトホルミン: 500mg/day(250mg/錠)、インシュリングルグルペン: 10単位/day (既服用中)
- ・2012年: 【医療センター】: 急性心筋梗塞 (AMI)にて入院、PCI (経皮的冠動脈形成術: スタント留置) 施行、2022年1月1日現在二次予防として⇒バイアスピリン: 100mg/day投与中

【入院中: Episode】

- ・2022年1月1日: 【千葉脳神経外科病院】: ①右中大脳動脈瘤破裂 (RCAD)、②中大脳動脈 (OCAD) 破裂後急性硬膜下血腫、③心原性肺動脈血栓、入院時④に対し⇒④⇒⑤ (ダルトロ) 施行⇒血栓回収術施行⇒再開通、⑤⇒⑥に対し心原性肺動脈血栓二次予防として⇒リクシアナ00: 30mg/day、Rateコントロールとして⇒ビンプロロール: 2.5mg/day開始、また現在上記入院経路によるsymptomatic treatment (対症療法)

※2022年1月2日: 心原性肺動脈血栓二次予防として (1/1: PLT: 20.3) ⇒リクシアナ00: 30mg/day開始 (心原性肺動脈血栓)、Age: 78、Sex: 男性、Scr: 1.5、Cor: 33.3、1/31: PLT: 19.2、AMI に対するPCI 施行後5年、冠動脈の狭窄なしにてバイアスピリン終了)

※2022年1月3日: 心原性肺動脈に対するRateコントロールとして (HR: 100前後) ⇒ビンプロロール: 2.5mg/day開始 (現在HR: 65前後にて推移)

※2022年1月5日: 高脂血症治療薬を持参薬より代替・変更⇒ロスバスタチン00: 2.5mg/day (1/31: TP: 185、TG: 95)

※2022年1月8日: 高血圧治療薬を持参薬より変更⇒アロプリノール: 100mg/day (1/31: SBP: 6.2)

【入院中: Story】: 入院日から退院日までの流れ

1/1: PLT: 20.3、1/31: PLT: 19.2、1/31: PLT: 19.2、AMI に対するPCI 施行後5年、冠動脈の狭窄なしにてバイアスピリン終了)

1/1: PLT: 20.3、1/31: PLT: 19.2、1/31: PLT: 19.2、AMI に対するPCI 施行後5年、冠動脈の狭窄なしにてバイアスピリン終了)

1/1: PLT: 20.3、1/31: PLT: 19.2、1/31: PLT: 19.2、AMI に対するPCI 施行後5年、冠動脈の狭窄なしにてバイアスピリン終了)

1/1: PLT: 20.3、1/31: PLT: 19.2、1/31: PLT: 19.2、AMI に対するPCI 施行後5年、冠動脈の狭窄なしにてバイアスピリン終了)

1/1: PLT: 20.3、1/31: PLT: 19.2、1/31: PLT: 19.2、AMI に対するPCI 施行後5年、冠動脈の狭窄なしにてバイアスピリン終了)

1/1: PLT: 20.3、1/31: PLT: 19.2、1/31: PLT: 19.2、AMI に対するPCI 施行後5年、冠動脈の狭窄なしにてバイアスピリン終了)

2022年1月1日より①右中大脳動脈瘤破裂 (RCAD)、②中大脳動脈 (OCAD) 破裂後急性硬膜下血腫、③心原性肺動脈血栓にて当院入院となり (年齢: 78)、入院時④に対し⇒④⇒⑤ (ダルトロ) 施行⇒血栓回収術施行⇒再開通、⑤⇒⑥に対し1/1⇒1/2: エタラボリン投与を再開、⑥⇒⑦に対し心原性肺動脈血栓二次予防として: リクシアナ00: 30mg/day、Rateコントロールとして: ビンプロロール: 2.5mg/day開始、また現在上記入院経路によるsymptomatic treatment (対症療法) を継続、その後入院時: 【医療センター】、【メディカルセンター】よりそれぞれ持参薬があり、入院時より全て中止とし、一歩退院の方策にて変更、退院時よりインシュリングルグルペンのみ再開と致します。持参薬の調剤は別紙参照、1/31: フォローUP MRIにて軟膜状態・増悪なく2/1: 自宅退院となります。 (参考: 1/1)

1/31: 脂血総量 (単位省略): AST: 15、ALT: 12、γ-GTP: 8、BUN: 16.2、Scr: 1.5、Cor: 33.3、電解質 (Na: 136.8、K: 3.8、Cl: 102.5)、Ca: 6.2、TP: 105、TG: 95、PLT: 19.2、A1 b: 3.5、1000cal/day 1/1: Rate: 6.5、また現在HR: 150前後/分前後、HR: 65前後にて推移しております。暫期間・血圧管理を含む今後の門診的フォローの継続を希望してお願いいたします。

※退院後調剤薬局持参薬⇒一層変更

病院名: 社会医療法人社団 千葉脳神経外科病院

提出薬剤師:

住 所: 千葉県千葉市緑区 長沼原町400番地

TEL: 043-259-1208



【入院中: Story】

時系列で4W1Hにて記載

【入院中: Story】

2022年1月1日(mRS:4)より①左中大脳動脈(MCA)閉塞、②左脳梗塞、③心房細動にて当院入院となり、入院時①に対しグルトパ(tPA)実施→血栓回収術施行→左MCA再開通、②に対し入院中5/28～6/8:エダラボン注を点滴静注、②・③に対し心原性脳塞栓症二次予防としてリクシアナOD: 30mg/dayに内服を開始、

また入院時【B医院】より持参薬があり入院時より全て中止とし当院処方薬にて一部代替・変更、としております。持参薬の詳細は別紙参照。
7/20フォローUP MRIにて新規梗塞・増悪なく2/1: 自宅退院となります。(mRS:1)

1/31:採血結果(単位省略):AST:15、ALT:12、 γ -GTP:8、BUN:16.2、Scr:1.5、Ccr:33.3、電解質(Na:136.0、K:3.8、Cl:102.5)、TC:185、TG:95、Alb:3.5、HbA1c:8.0、1400Kcal/day、また現在BP:150前後/85前後、HR:65前後にて推移しております。腎機能・血压管理、を含む今後の内科的フォローを宜しくお願い致します



病房名：	社会医疗保险社团 手麻神经内科病房	担当医师：
住 所：	千葉県千葉市緑地区 長沼西町400番地	TEL：



共有システムの標準化(システム化)へ

各々のPBP・M (院内共有システム)

Episode
Connecting ↓ with a line
Story

薬剤情報共有から始まる
院内・外情報共有の可視化の標準化

患者情報の完成は入院時情報のアンカーとして
退院時薬剤情報共有書の作成は退院時情報のファーストラン
ナーとして薬剤師がそれぞれの可視化を担うことができます🔊

情報提供を情報**共有**へ

薬・薬連携（共有）



2025年地域包括ケアシステムに先駆け

《当院》
【病院(Dr)】

+



【病院(薬剤師)】

《フォロー先医療機関》
【病院(Dr)】+【病院(薬剤師)】
【調剤薬局】
【施設の職員】

薬・診連携（共有）のバトンの中身の可視化



退院時薬剤情報共有書の作成をアンカーとしたPBPMの連動の標準化

①少ない人数でも予定・予測を立てて行える

効率性

②医師(Teacher)との真のダブルcheckで得られる気付き

質

③アンカーのシェアで得られる医師とのconsensus

理解と信頼関係

④薬剤師の生産性と還元性を示す

生産力・還元力のスケール化

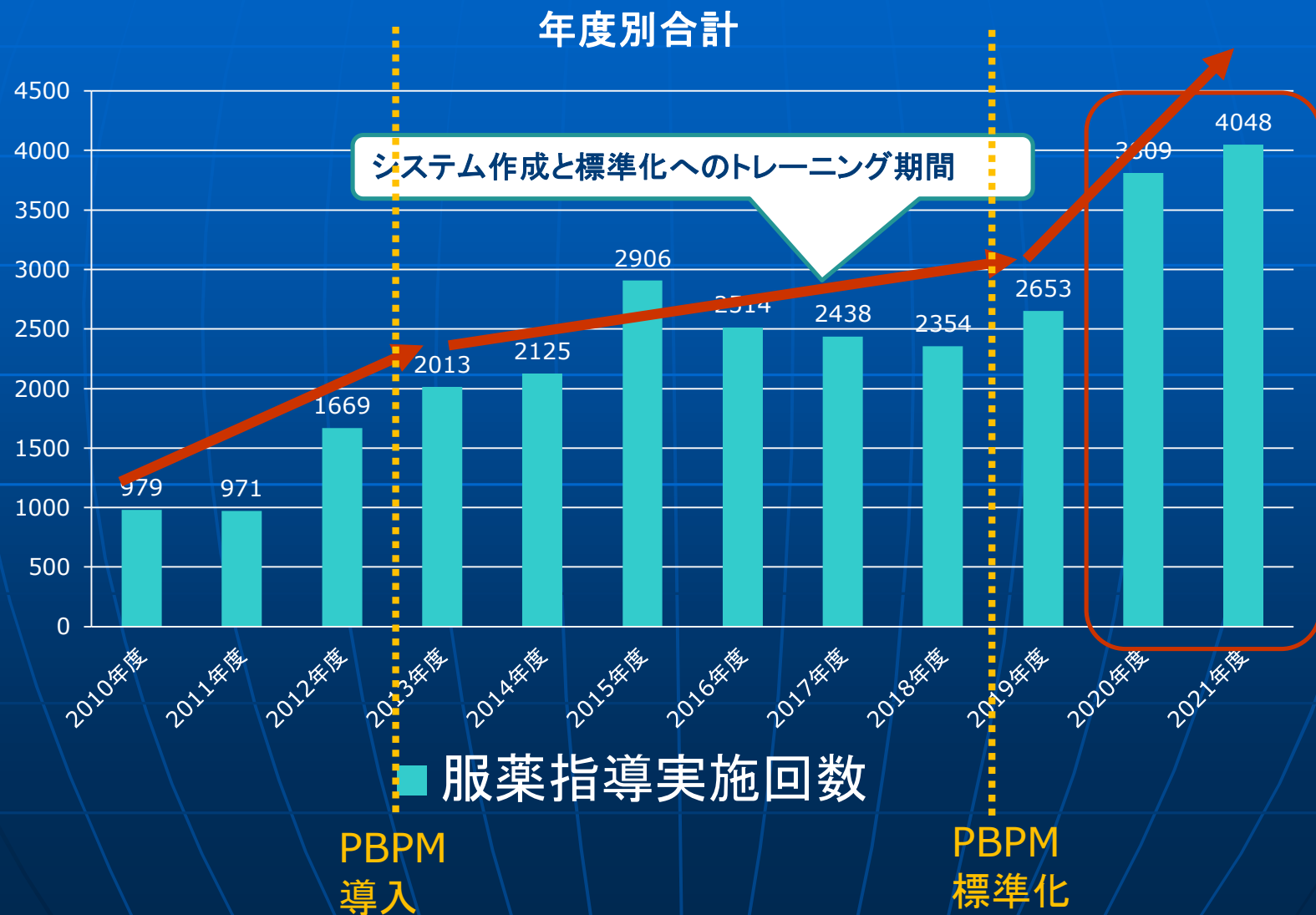


トピックス

- ①タスクシェア・シフトの概要
- ②PBP・Mの考え方
- ③薬から始まる患者情報の院内共有と院外共有
 - ④PBP・Mの標準化でもたらされる薬剤師の生産力・還元力
- ⑤ Connecting with a line の考え方
- ⑥シンデレラにできること
- ⑦政府の今後の指針と展望
- ⑧患者様をメンバーに含むチーム医療の可視化
- ⑨当院の考える薬剤師の育て方



薬剤管理指導件数の推移 (質・効率性・生産性)



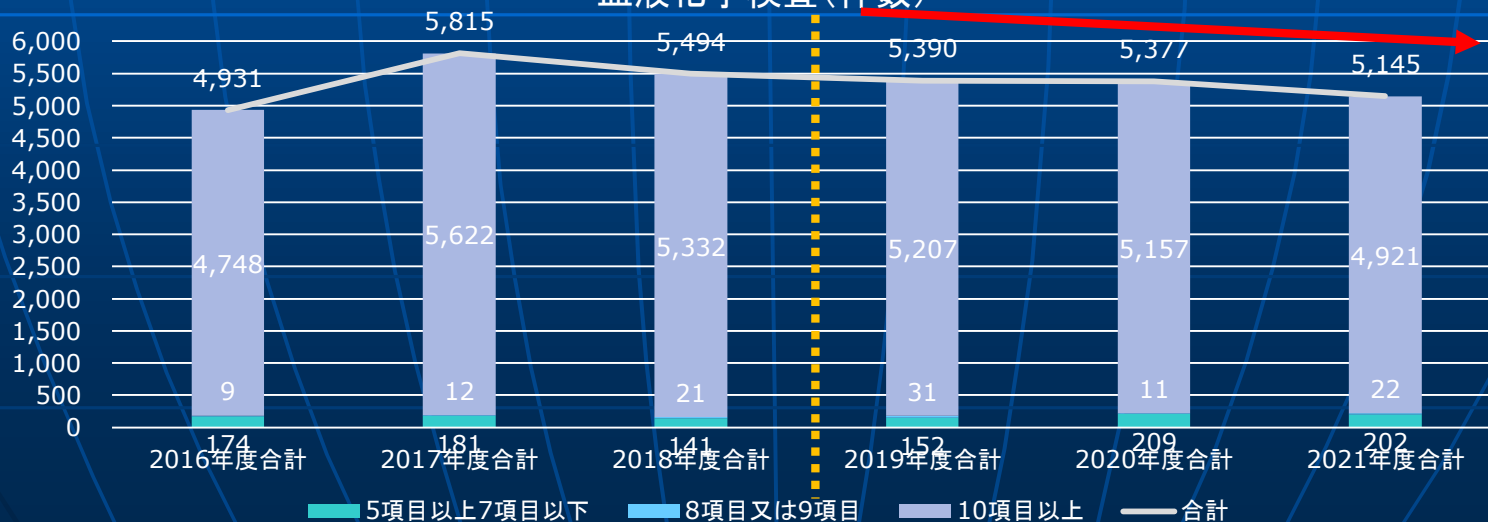
採血件数の変化(効率性・還元性)

平均	急性期				血液化学検査				
	入院数	退院数	延べ人数	在院日数	検査回/月(パス)	予定件数/月	実件数/月	平均回数/人	還元率
2016年度	124	125	1870	15.0	4	496	411	3.31	83%
2017年度	137	137	2002	14.6	4	548	485	3.54	88%
2018年度	129	129	1855	14.4	4	516	458	3.55	89%
2019年度	132	133	1918	14.6	4	529	449	3.4	85%
2020年度	137	128	1878	14.2	4	549	448	3.27	82%
2021年度	132	119	1780	15.4	4	526	429	3.25	81%

PBPM
標準化

パス採血日: day: 1、3、8、13

血液化学検査(件数)



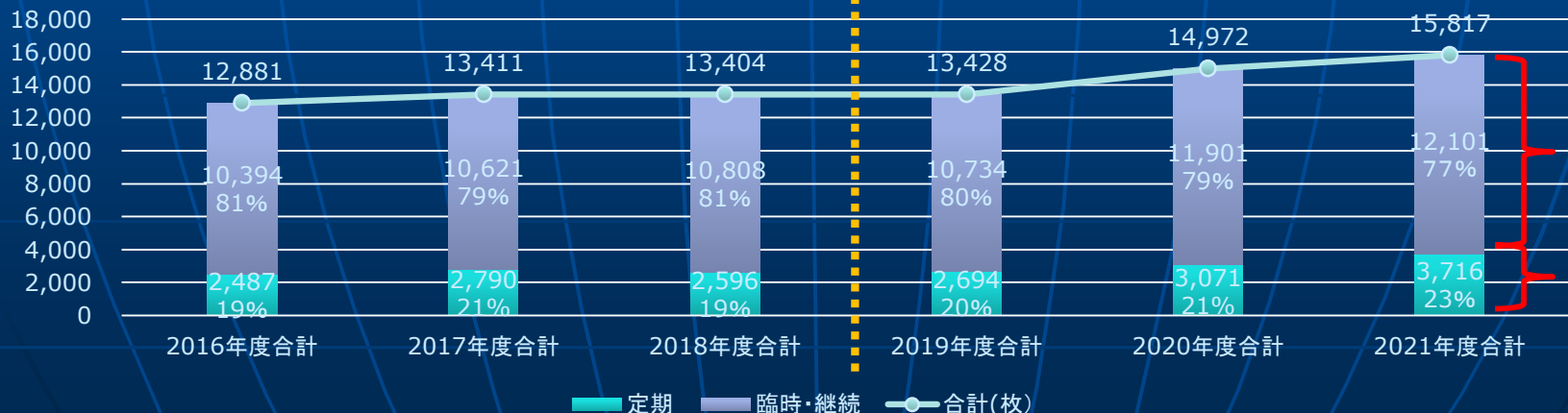
内服薬処方区分割合変化 (効率性・還元性)

							急性期				
処方箋(枚数)	定期		臨時・継続		合計(枚)	平均(枚)/月	平均(枚)/人	入院数(平均:人)	退院数(平均:人)	延べ人数(人)	在院日数(日)
2016年度合計	2,487	19%	10,394	81%	12,881	1,073	9	124	125	1870	15.0
2017年度合計	2,790	21%	10,621	79%	13,411	1,118	8	137	137	2002	14.6
2018年度合計	2,596	19%	10,808	81%	13,404	1,117	9	129	129	1855	14.4
2019年度合計	2,694	20%	10,734	80%	13,428	1,119	8	132	133	1918	14.6
2020年度合計	3,071	21%	11,901	79%	14,972	1,248	9	137	128	1878	14.2
2021年度合計	3,716	23%	12,101	77%	15,817	1,318	10	132	119	1780	15.4

PBPM
標準化

ここを減らすことが目標

処方箋合計枚数

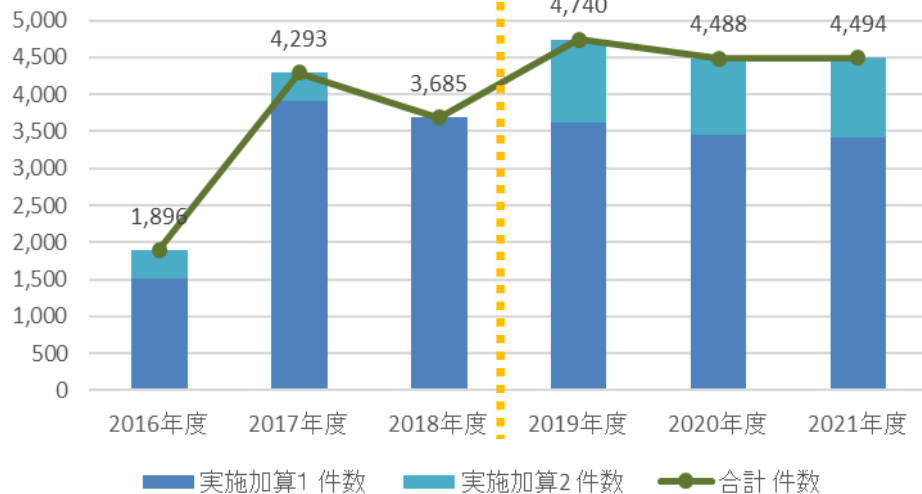


病棟薬剤実務実施加算 (質・生産性)

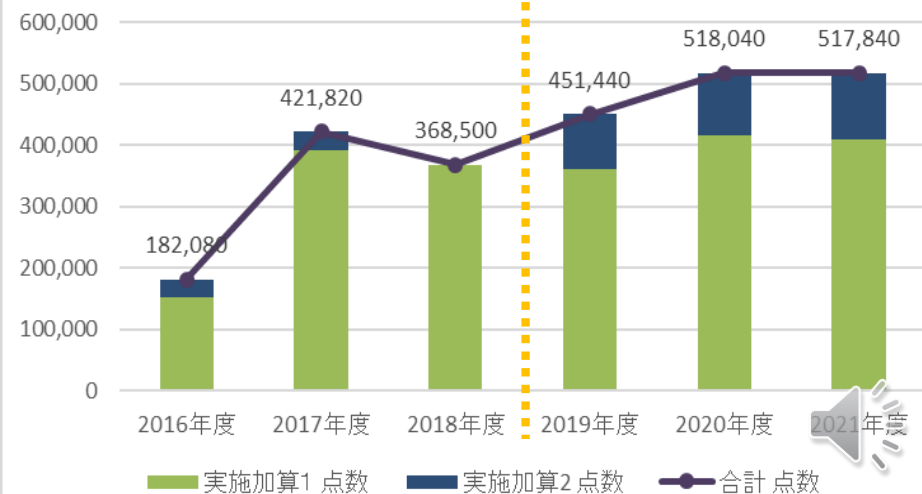
PBPM
標準化

	実施加算1		実施加算1		実施加算2		実施加算2		合計		合計		平均	
	件数		点数		件数		点数		件数		点数		件数	
2016年度	1,520	80%	152,000	83%	376	20%	30,080	17%	1,896		182,080		158	15,173
2017年度	3,919	91%	391,900	93%	374	9%	29,920	7%	4,293		421,820		358	35,152
2018年度	3,685	100%	368,500	100%	0	0%	0	0%	3,685		368,500		307	30,708
2019年度	3,612	76%	361,200	80%	1,128	24%	90,240	20%	4,740		451,440		395	37,620
2020年度	3,462	77%	415,440	80%	1,026	23%	102,600	20%	4,488		518,040		374	43,170
2021年度	3,422	76%	410,640	79%	1,072	24%	107,200	21%	4,494		517,840		375	43,153

病棟薬剤業務実施加算(件数)



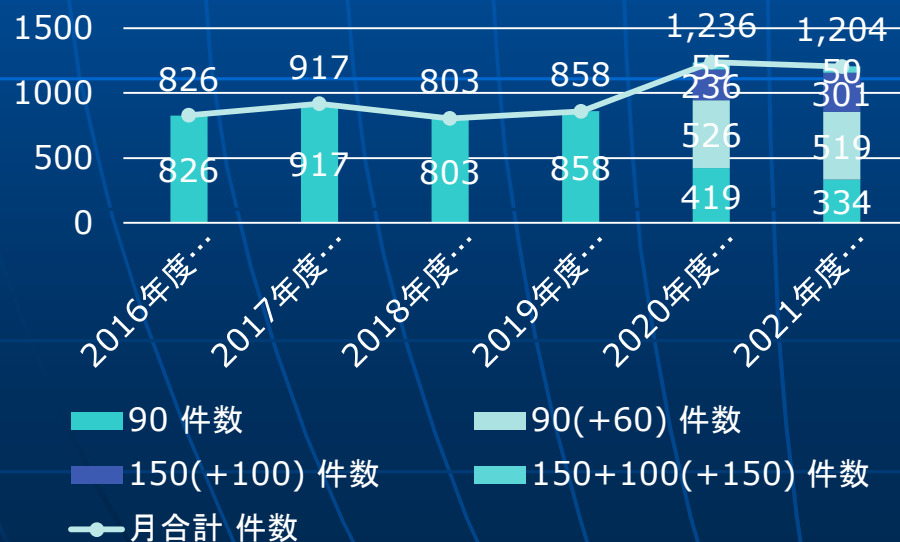
病棟薬剤業務実施加算(点数)



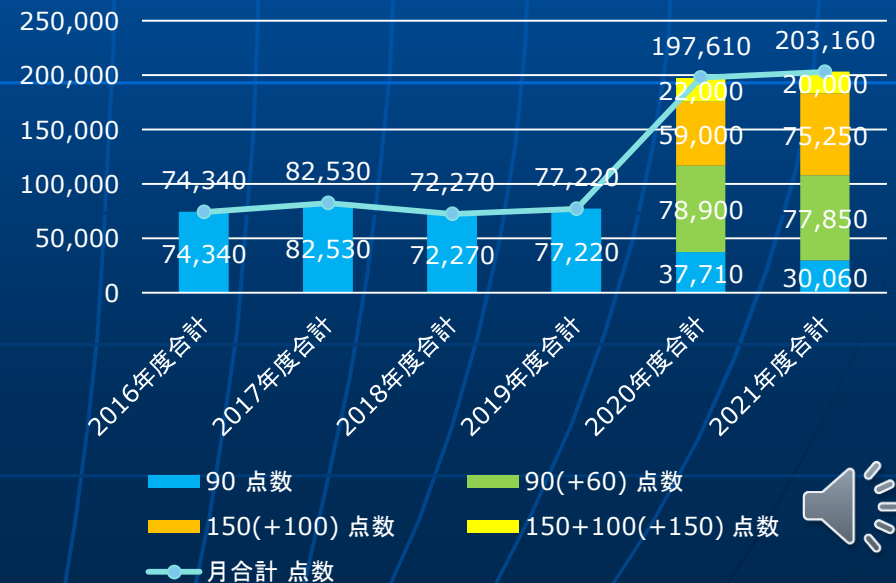
退院時情報提供加算 (質・生産性)

	退院時薬剤情報管理加算				退院時薬剤情報連携加算				薬剤総合評価調整加算				薬剤調整加算							
	90		90		90(+60)		90(+60)		150(+100)		150(+100)		150+100(+150))		150+100(+150))		月合計	月合計	平均	
	件数		点数		件数		点数		件数		点数		件数		点数		件数	点数	件数	点数
2016年度合計	826	100(%)	74,340	100(%)													826	74,340	69	6,195
2017年度合計	917	100(%)	82,530	100(%)													917	82,530	76	6,878
2018年度合計	803	100(%)	72,270	100(%)													803	72,270	67	6,023
2019年度合計	858	100(%)	77,220	100(%)													858	77,220	72	6,435
2020年度合計	419	34(%)	37,710	19(%)	526	43(%)	78,900	40(%)	236	19(%)	59,000	30(%)	55	4(%)	22,000	11(%)	1,236	197,610	103	16,468
2021年度合計	334	28(%)	30,060	15(%)	519	43(%)	77,850	38(%)	301	25(%)	75,250	37(%)	50	4(%)	20,000	10(%)	1,204	203,160	100	16,930

退院時薬剤加算(件数)



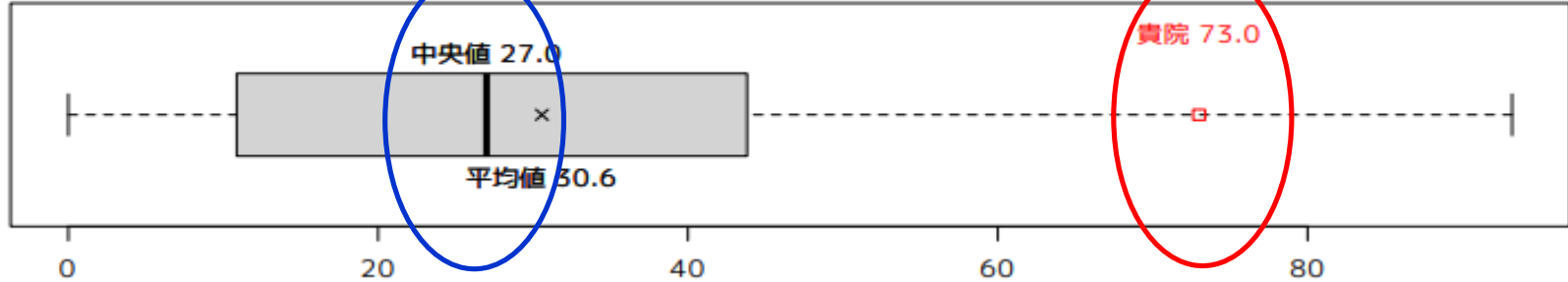
退院時薬剤加算(点数)



令和3年度「病院薬剤部門の現状調査」フィードバック資料 (効率性・生産性)

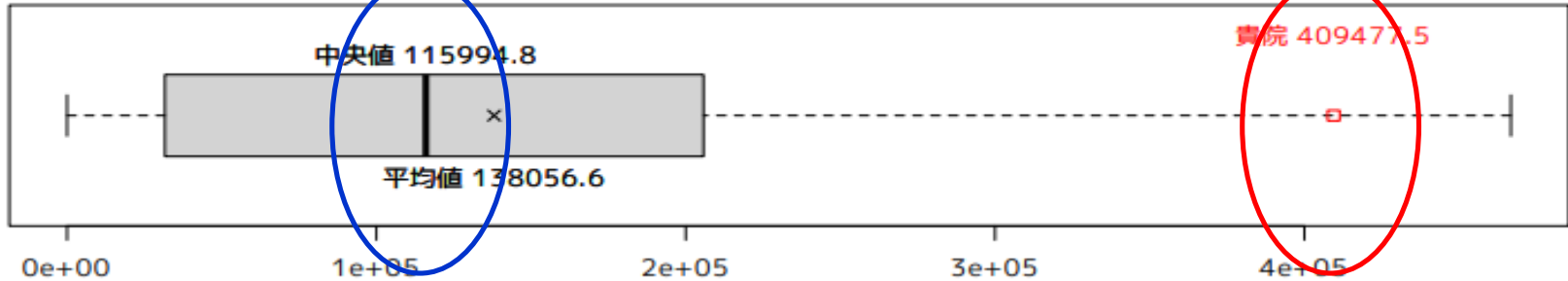
※◎薬剤師1人当たりの薬剤管理指導件数

該当施設数:3550、「0」以外の回答の施設:2471、「0」と回答の施設:154 (未回答:925, 26%), 外れ値非表示



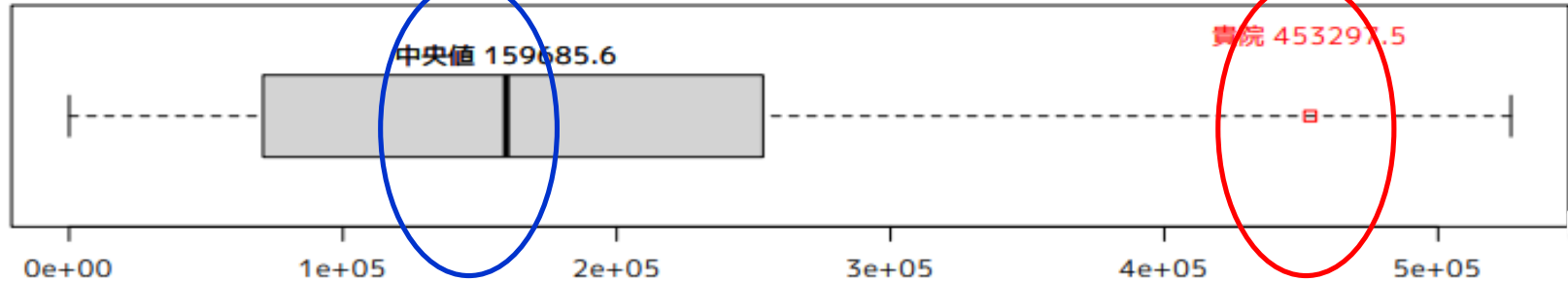
※◎薬剤師1人当たりの病棟業務に係る診療報酬 (円)

該当施設数:3550、「0」以外の回答の施設:2611、「0」と回答の施設:198 (未回答:741, 21%), 外れ値非表示



○※◎薬剤師1人当たりの投薬、病棟業務等の診療報酬 (円)

該当施設数:3550、「0」以外の回答の施設:3172、「0」と回答の施設:44 (未回答:334, 9%), 外れ値非表示



全ての医療機関で共通なこととは

入院があれば必ず**退院**があります

チームとしての目的は

患者様を無事に退院へ導くこと



トピックス

- ①タスクシェア・シフトの概要
- ②PBP・Mの考え方
- ③薬から始まる患者情報の院内共有と院外共有
- ④PBP・Mの標準化でもたらされる薬剤師の生産力・還元力
- ⑤ Connecting with a line の考え方
- ⑥シンデレラにできること
- ⑦政府の今後の指針と展望
- ⑧患者様をメンバーに含むチーム医療の可視化
- ⑨当院の考える薬剤師の育て方



【入院中: Story】: 質・ジェネラリスト・理解

【入院中: Story】

2022年1月1日 (mRS:4) より①左中脳動脈(MCA)閉塞、②左脳梗塞、③心房細動にて当院入院となり、入院時①に対しグルトパ(tPA)実施→血栓回収術施行→左MCA再開通。
②に対し入院中5/28~6/8: エダラボン注を点滴静注、②・③に対し心原性脳塞栓症二次予防として
放射線技師 OD: 30mg/dayに内服を開始。入院時【B医院】より持参薬があり入院時より全て中止とし当院処方薬にて一部代替・変更されます。持参薬の詳細は別紙参照。7/20フォローUP
MRIにて新規梗塞・増悪なく2/1: 自宅退院となります。(mRS:1) 臨床工学士、セラピスト

1/31: 採血結果(単位省略): AST:15、ALT:12、γ-GTP:8、BUN:16.2、Scr:1.5、Ccr:33.3、
電解質(Na:136.0、K:3.8、Cl:102.5)、TC:185、TG:95、

Alb: 4.5、HbA1c:8.0、1400Kcal/day、

現在BP:150前後/85前後、HR:65前後にて推移しております。腎機能・血压管理、を含む今
看護科的フォローを宜しくお願い致します

看護師

手術室

MSW

臨床工学士、セラピスト

NST・栄養師

臨床検査技師

看護師

看護師

事務(点数化)

そして医師と協同で

- ・入院における患者情報 **提供** のアンカーとして
- ・退院における患者情報 **共有** のファーストランナーとして

我々薬剤師は患者様と全ての医療従事者に対し患者情報というバトンの中
身を作成することで理解を得ることができるのではないのでしょうか。



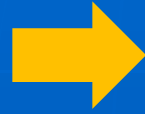
トピックス

- ①タスクシェア・シフトの概要
- ②PBP・Mの考え方
- ③薬から始まる患者情報の院内共有と院外共有
- ④PBP・Mの標準化でもたらされる薬剤師の生産力・還元力
- ⑤ Connecting with a line の考え方
 - ⑥シンデレラにできること
- ⑦政府の今後の指針と展望
- ⑧患者様をメンバーに含むチーム医療の可視化
- ⑨当院の考える薬剤師の育て方



PBP・Mからのタスク シェア・シフト

①タスクシェア



ジェネラリストの協同

②タスクシフト



チーム医療の可視化

医師

薬剤師

ジェネラリストのパートナーとして

アンカーのシェア



アンサンングシンデレラ



シンデレラのタスクとは

①患者様(ゲスト)に対し⇒受けた医療の可視化



チーム医療の
バランス(いなし)
をもたらします

②医療従事者(キャスト)に対し⇒行った医療の可視化

他職種のアナログを病・薬歴(診療)Storyとして再統合

そのStoryの可視化を薬剤師が行うことで、患者様、他セクションのチームのメンバーからconsensusを生むことができます。

そしてTotal medical careの評価を医師が行うことで



トピックス

- ①タスクシェア・シフトの概要
- ②PBP・Mの考え方
- ③薬から始まる患者情報の院内共有と院外共有
- ④PBP・Mの標準化でもたらされる薬剤師の生産力・還元力
- ⑤ Connecting with a line の考え方
- ⑥シンデレラにできること
- ⑦政府の今後の指針と展望
- ⑧患者様をメンバーに含むチーム医療の可視化
- ⑨当院の考える薬剤師の育て方



政府「医療DX令和ビジョン2030」の提言

「医療 DX 令和ビジョン 2030」の提言

令和4年5月17日
自由民主党政務調査会

(1)「全国医療情報プラットフォーム」の創設

(2)電子カルテ情報の標準化（全医療機関への普及）

(3)「診療報酬改定 DX」の3つの取組を同時並行で進める。

（提言の概要）

- 日本の医療分野の情報のあり方を根本から解決するため、
 - （1）「全国医療情報プラットフォーム」の創設
 - （2）電子カルテ情報の標準化（全医療機関への普及）
 - （3）「診療報酬改定 DX」の3つの取組を同時並行で進める。
- これにより、患者・国民、医療関係者、電子カルテ等のシステムベンダのそれぞれが、以下のメリットを享受できる。

【患者・国民】

- ・ 診療の質の向上、重複検査・投薬の回避、自身の健康維持・増進への活用（1次利用）
- ・ 治療の最適化や AI 医療等の新技術開発、創薬、新たな医療機器の開発等（2次利用）
- ・ システム費用の低減を通じた医療保険の制度運営にかかる国民負担の抑制

【医療関係者】

- ・ 患者情報の共有や新技術開発による医療サービスの向上
- ・ 電子カルテにかかる費用の低減
- ・ 電子カルテ未導入機関への導入契機

【システムベンダ】

- ・ 医療機関ごとのカスタマイズ対応が減り、SE の業務環境の改善・参入障壁の解消を図りつつ、社会的に意義ある医療サービスの高度化に向けて競争するという構造改革の実現
- 多くの関係者の納得と協力を得つつ、実現に向けた強固なガバナンス体制を構築した上で、行政のみならず、医療界、医学界、産業界が一丸となって不退転の決意で取り組む。

このビジョンは、
加えて政府の実施
率の目標値を、
認識し、行政のみ
和ビジョン 2030」

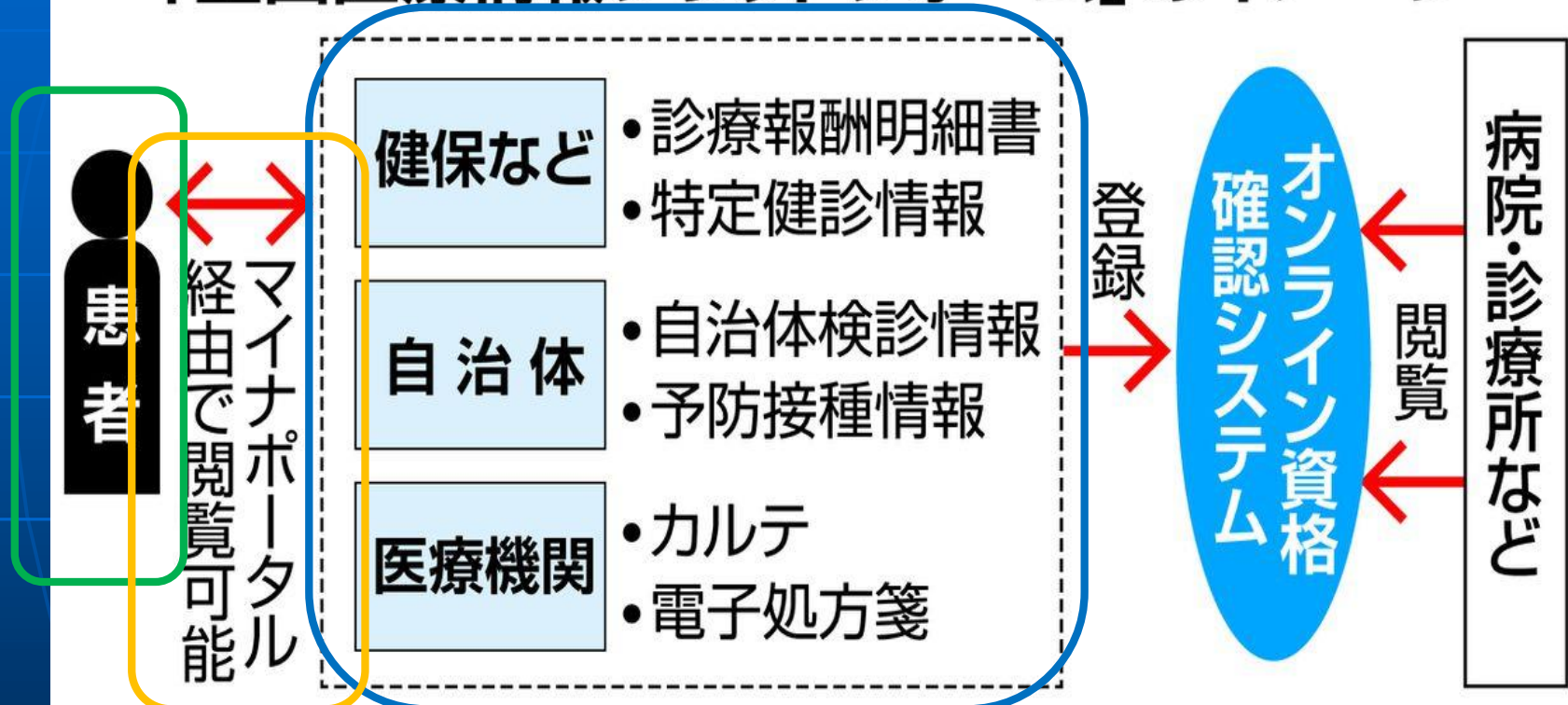
の普及）

の納得と協力、
と、電子カルテ普
する。周回遅れを
って「医療 DX 令



全国医療情報プラットフォーム

「全国医療情報プラットフォーム」のイメージ



退院時薬剤情報共有書(患者情報)



患者情報

トピック

2022年2月19日
(土曜日) 10:47

入院 テスト マルカ
099999996 テスト 勝さん

発症時期(年齢)	病名	
2013年2月頃(69)	急性心筋梗塞	【医療センター】:2013年2月頃
2013年2月頃(69)	高脂血症	【メディカルセンター】:2013年2月頃
2016年12月頃(72)	2型糖尿病	【メディカルセンター】:2016年12月頃
2018年6月頃(74)	痛風	【メディカルセンター】:2018年6月頃
2022年1月頃(78)	右中大脳動脈閉塞症(MCA)	【千葉脳神経外科病棟】:2022年1月頃
2022年1月頃(78)	右中大脳動脈(MCA)領域梗塞	【千葉脳神経外科病棟】:2022年1月頃
2022年1月頃(78)	心房細動	【千葉脳神経外科病棟】:2022年1月頃

何時 何故 何処

時系列

退院時のおくすりについてのお知らせ

テスト 勝さん 様

退院日 2022 年 2 月 1 日

- 入院時や退院時におけるあなたのおくすりに関する時に説明を必要とする点や注意点についてお知らせします。
- 誤剤を受ける薬名や病名・診療所などにかかるとき持参すると、あなたのおくすりに関する情報を伝えることができます。

■退院時にお持ち帰りになるお薬と内容

1. リタシナナ000錠30錠 (1日1錠/1日1回朝食後/14日分)

2. ビンブプロロール50mg錠30錠 (1日2錠/1日2回朝食後/14日分)

3. ロスバスタチン40錠30錠 (1日1錠/1日1回夕食後/14日分)

4. アロプリノール錠100mg (1日1錠/1日1回夕食後/14日分)

5. テモリア000錠20錠 (1日2錠/1日2回朝食後/14日分)

6. メトホルミン塩酸塩250mg錠100錠 (1日3錠/1日3回朝食後/14日分)

【既往:Hstory】と【入院中:Episode】

【既往:Hstory】

【既往時期不明】:【メディカルセンター】:本施設にて2022年1月1日現在入院中⇒ロスバスタチン40:2.5mg/day

【既往時期不明】:【メディカルセンター】:高血圧にて2022年1月1日現在入院中⇒フェブリク:50mg/day

【既往時期不明】:【メディカルセンター】:2型糖尿病にて2022年1月1日現在入院中⇒インシュリン(血糖値)⇒血糖値:150mg/dL、メトホルミン:500mg/day(250mg/錠)、インシュリン(血糖値)⇒血糖値:150mg/dL(既病歴)

2012年:【医療センター】:急性心筋梗塞(AMI)にて入院。PCI(経皮的冠動脈形成)⇒カテーテル留置。2022年1月1日現在二次予防としてロスバスタチン:50mg/day継続中

【入院中:Episode】

2022年1月1日:【千葉脳神経外科病棟】:右中大脳動脈閉塞症(MCAO)、右中大脳動脈(MCAO)領域急性性梗塞。心筋梗塞にて入院。入院時より⇒ロスバスタチン(40錠)⇒血糖値(血糖値)⇒血糖値:150mg/dL、メトホルミン:500mg/day(250mg/錠)、インシュリン(血糖値)⇒血糖値:150mg/dL(既病歴)

2022年1月1日:心筋梗塞二次予防として⇒ロスバスタチン:50mg/day、血糖コントロールとして⇒インシュリン(血糖値)⇒血糖値:150mg/dL(既病歴)

2022年1月1日:高血圧治療薬を持参より変更⇒ロスバスタチン:50mg/day(1/31:TP:105、TG:70)

2022年1月1日:高血圧治療薬を持参より変更⇒アロプリノール:100mg/day(1/31:UA:6.2)

2022年1月1日:2型糖尿病治療薬を持参より一部変更⇒テモリア:20錠/day、メトホルミン:500mg/day(250mg/錠)、ランタス(注:18単位/day/回(既病歴))⇒血糖値(血糖値)⇒血糖値:150mg/dL(既病歴)

【既往時期:Episode】

2022年1月10日:脳神経外科病棟にて⇒ロスバスタチン:50mg/day/回⇒1/31~1/12

【入院中:Story】

■これまで

・ロスバスタチン

■誤剤に当たった時の正

・入院時:【医療センター】:【メディカルセンター】よりそれぞれ持参あり、入院時より全て中止とし、一部当院処方にて変更。退院時よりインシュリン(血糖値)⇒血糖値:150mg/dL(既病歴)と致します。持参薬の詳細は別紙参照。

2022年1月1日より右中大脳動脈閉塞症(MCAO)、右中大脳動脈(MCAO)領域急性性梗塞。心筋梗塞にて入院。入院時より⇒ロスバスタチン(40錠)⇒血糖値(血糖値)⇒血糖値:150mg/dL、メトホルミン:500mg/day(250mg/錠)、インシュリン(血糖値)⇒血糖値:150mg/dL(既病歴)

2022年1月1日:心筋梗塞二次予防として⇒ロスバスタチン:50mg/day、血糖コントロールとして⇒インシュリン(血糖値)⇒血糖値:150mg/dL(既病歴)

2022年1月1日:高血圧治療薬を持参より変更⇒ロスバスタチン:50mg/day(1/31:TP:105、TG:70)

2022年1月1日:高血圧治療薬を持参より変更⇒アロプリノール:100mg/day(1/31:UA:6.2)

2022年1月1日:2型糖尿病治療薬を持参より一部変更⇒テモリア:20錠/day、メトホルミン:500mg/day(250mg/錠)、ランタス(注:18単位/day/回(既病歴))⇒血糖値(血糖値)⇒血糖値:150mg/dL(既病歴)

【既往時期:Episode】

2022年1月10日:脳神経外科病棟にて⇒ロスバスタチン:50mg/day/回⇒1/31~1/12

病名: 社会医療法人社団 千葉脳神経外科病棟 担当医: 田中 隆雄

住 所: 千葉県千葉市稲毛区 長沼原町40番地 TEL: 043-250-1220

変化

ハツ

コメント

mg/day継続 Episode1

ハツ:100:21時 Episode2

2/1:自宅退院 Episode3

2.5mg/day開始2/1:自宅退院 Episode4

2/1:自宅退院 Episode5

2.5mg/day開始2/1:自宅退院 今回の入院

記載



トピックス

- ①タスクシェア・シフトの概要
- ②PBP・Mの考え方
- ③薬から始まる患者情報の院内共有と院外共有
- ④PBP・Mの標準化でもたらされる薬剤師の生産力・還元力
- ⑤ Connecting with a line の考え方
- ⑥シンデレラにできること
- ⑦政府の今後の指針と展望
- ⑧患者様をメンバーに含むチーム医療の可視化
- ⑨当院の考える薬剤師の育て方

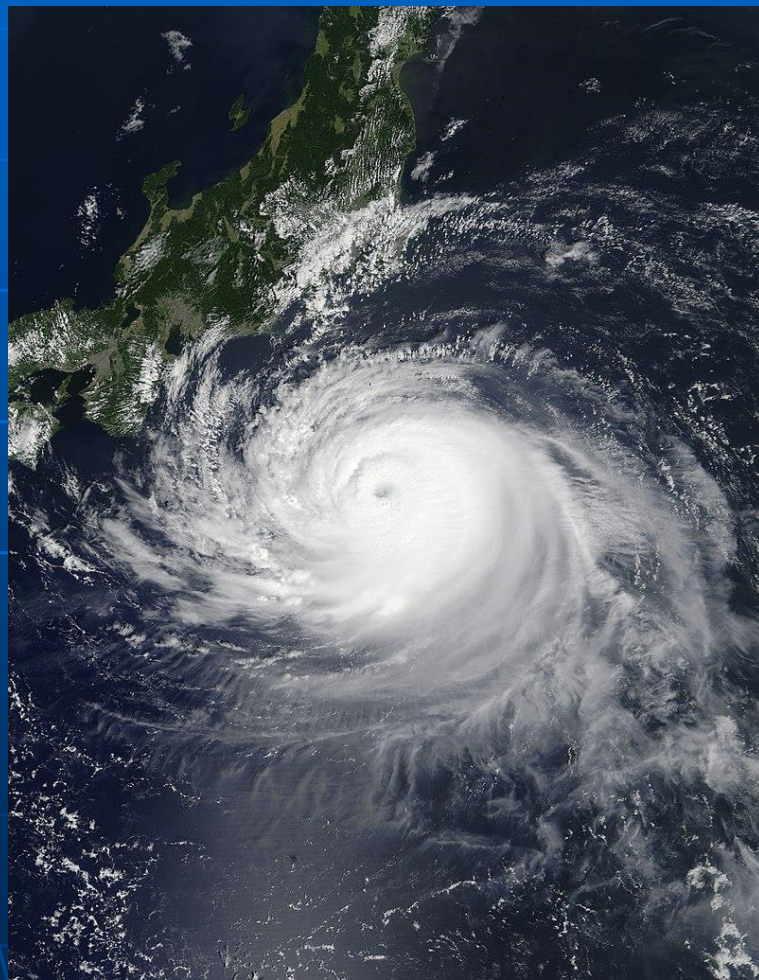


ファーマシューティカルケアの可視化から始まる新たな可能性とは

チーム医療の可視化による患者情報の共有



2019年9月9日：台風15号



4日間の停電



【マイナポータル】と【お薬手帳】

退院時のおくすりについてのお知らせ

テスト 勝さん 様

退院日 2022 年 2 月 1 日

- ・入院時や退院時におけるあなたのおくすりに関する時に説明を必要とする点や注意点についてお知らせします。
- ・調剤を受ける薬局や病院・診療所などにかかられるとき持参すると、あなたのおくすりに関する情報を伝えることができます。

■退院時にお持ち帰りになるお薬と内服

1. リクシアナ00錠30mg (1回1錠/日1回経口食後/14日分)
2. ビンブロロール2.5mg錠25mg(トローワ) (1回1錠/日1回経口食後/14日分)
3. ロスバスタチン00錠2.5mg(36錠) (1回1錠/ (持参より変更) 日1回経口食後/14日分)
4. アロプリノール錠100mg(トローワ) (1回1錠/ (持参より変更) 日1回経口食後/14日分)
5. テナリア00錠20mg (1回1錠/ (持参より変更) 日1回経口食後/14日分)
6. メトホルミン塩酸塩250mg錠(トローワ) (1回1錠/ (持参より変更) 日2回経口食後/14日分)

■退院後の服薬上の注意

【既往：History】
 ・既往時期不明：【メディカルセンター】：高血圧症に対し2022年1月1日現在内服加療中⇒ロスバスタチン00：2.5mg/day

・既往時期不明：【メディカルセンター】：高血圧に対し2022年1月1日現在内服加療中⇒フェブリク：100mg/day
 ・既往時期不明：【メディカルセンター】：二型糖尿病に対し2022年1月1日現在内服・インシュリン加療中⇒エスピア0：50mg/day、メトホルミン：500mg/day(250mg/錠)、インシュリングルカリン：10単位/day (既発前in

・2017年：【医療センター】：急性心筋梗塞 (AMI)にて入院。PCI (経皮的冠動脈形成術：ステント留置) 施行。
 2022年1月1日現在二次予防として⇒バイアスピリン：100mg/day継続中

【入院中：Episode】

・2022年1月1日：【千葉脳神経外科病院】：①右中大脳動脈閉塞症 (MCAO)、②中大脳動脈 (MCA) 梗塞後右性痺、③心臓動脈にて入院。入院時に対し⇒t-PA (グルトバ) 施行⇒血栓溶解療法施行⇒再発。④⇒⑤に対し心臓動脈二次予防として⇒リクシアナ00：30mg/day、Rateコントロールとして⇒ビンブロロール：2.5mg/day開始。また現在上記お薬 (持参より変更) によるsymptomatic treatment (対症療法)

・2022年1月1日：心臓動脈梗塞二次予防として (N/1：PLT：20.3) ⇒リクシアナ00：30mg/day開始 (心臓動脈)。Age：78、Wt：58kg、Scr：1.5、Cor：33.3、1/31：PLT：19.2、AMIに対するPCI施行後5年、冠動脈の状態なしにてバイアスピリン終了)

・2022年1月1日：心臓動脈に対するRateコントロールとして (HR：100前後) ⇒ビンブロロール：2.5mg/day開始 (現在HR：65前後にて推移)

・2022年1月1日：高血圧症治療薬を持参より代替・変更⇒ロスバスタチン00：2.5mg/day (1/31：TP：185、TG：65)

・2022年1月1日：糖尿病薬を持参より変更⇒アロプリノール：100mg/day (1/31：UA：6.2)
 ・2022年1月1日：二型糖尿病治療薬を持参より一部変更⇒テナリア00：20mg/day、メトホルミン：500mg/day(250mg/錠)、ランタス注：18単位/day (既発前) (1/1：HbA1c：6.5、現在65前後 (糖尿病)：100～130にて推移、5000kcal/day)

【既往症：Episode】

・2022年1月10日：肥満症に対し⇒SIF8：50mg/day/週：1/10～1/12

■これまでのアムネキ、処方箋の履歴の概要一覧

・「メトホルミン」内服中：モード「造形剤使用時用法」期間内中止。

■調剤に当たっての工夫等の留意点

・入院時：【医療センター】、【メディカルセンター】よりそれぞれ持参薬があり、入院時より全て中止とし、一部山院の方案にて変更。退院時よりインスリングルカリンのみ再開と致します。持参薬の詳細は別紙参照。

【入院中：Story】

・2022年1月1日より①右中大脳動脈閉塞症 (MCAO)、②中大脳動脈 (MCA) 梗塞後右性痺、③心臓動脈にて山院入院。入院時に対し⇒t-PA (グルトバ) 施行⇒血栓溶解療法施行⇒再発。④⇒⑤に対し心臓動脈二次予防として⇒リクシアナ00：30mg/day、Rateコントロールとして⇒ビンブロロール：2.5mg/day開始。また現在上記お薬 (持参より変更) によるsymptomatic treatment (対症療法) を継続。その他入院時：【医療センター】、【メディカルセンター】よりそれぞれ持参薬があり、入院時より全て中止とし、一部山院の方案にて変更。退院時よりインスリングルカリンのみ再開と致します。持参薬の詳細は別紙参照。1/31：フォローUP MRIにて新発梗塞・増悪なく2/1：自宅退院となります。(MRS：1/31：経血結果 (単位省略)：AST：15、ALT：12、γ-GTP：8、BUN：16.2、Scr：1.5、Cor：33.3、電解質 (Ks：16.0、K：3.8、Cl：132.5)、UA：6.2、TP：105、TG：95、PLT：19.2、Hb：13.5、1400kcal/day/1/1：HbA1c：6.5、また現在：1/10前後/65前後、HR：65前後にて推移しております。血圧管理を念右今後の内科的フォローの目的を要し、お願いいたします。

病院名： 社会医療法人社団 千葉脳神経外科病院 担当薬剤師：
 住 所： 千葉県千葉市緑区 長沼町400番地 TEL： 043-250-1220

くすり手帳

帳は貴方の健康増進の為に、
 管理をする大切な手帳です。

処方せん又は診療券と一緒にお出してください。

お名前

お薬手帳

様



マイナポータル

マイナポータル

記録(同意)から記憶(理解)に残る方法で共有



退院時のおくすりについてのお知らせ

テスト 勝さん 様

退院日 2022 年 2 月 1 日

・入院時や退院時におけるあなたのおくすりに関する時に説明を必要とする点や注意点についてお知らせします。

・誤剤を受ける薬局や病院・診療所などにおかられるとき持参すると、あなたのおくすりに関する情報を伝えることができます。

■退院時にお持ちになるお薬と内容

1. リクシアナ00錠30mg (1回1錠/1日1回朝食後/14日分)
2. ビンゾロロールフルマル酸塩2.5mg「トロー」 (1回1錠/1日1回朝食後/14日分)
3. ロスバスタチン00錠2.5mg「DIP」 (1回1錠/ (持参薬より変更) 1日1回朝食後/14日分)
4. アロプリノール錠100mg「タナベ」 (1回1錠/ (持参薬より変更) 1日1回朝食後/14日分)
5. テネリア00錠20mg (1回1錠/ (持参薬より変更) 1日1回朝食後/14日分)
6. メトホルミン塩酸塩250mg「トロー」 (1回1錠/ (持参薬より変更) 1日2回朝食後/14日分)

■退院後の服薬上の注意

【既往: History】

- ・発症時期不明: 【メディカルセンター】: 高血圧症に対し2022年1月1日現在内服投与中⇒ロスバスタチン00: 2.5mg/day
- ・発症時期不明: 【メディカルセンター】: 高血圧症に対し2022年1月1日現在内服投与中⇒フェブリク: 100mg/day
- ・発症時期不明: 【メディカルセンター】: 二型糖尿病に対し2022年1月1日現在内服・インシュリン投与中⇒ジャヤスピ: 50mg/day、メトホルミン: 500mg/day(250mg/回)、インシュリングルグルペン: 10単位/day (既服前in)
- ・2017年: 【医療センター】: 急性心筋梗塞 (AM) にて入院。PCI (経皮的冠動脈形成術) スタント留置。2022年1月1日現在二次手術として⇒バイアスピリン: 90mg/day継続中

【入院中: Episode】

- ・2022年1月1日: 【千葉県脳神経外科病院】: ①中大脳動脈瘤 (OCM)、②中大脳動脈 (OCA) 破裂出血性梗塞、③心原性肺病にて入院。入院時に対し⇒t-PH (グルトバ) 施行⇒血栓回収術施行⇒再開通。④⑤に対し心原性肺病二次手術として⇒リクシアナ00: 30mg/day、Rateコントロールとして⇒ビンゾロロール: 2.5mg/day開始。また現在上記の病変 (持参薬より変更) によるSymptomatic treatment (対症療法)
- ※2022年1月1日: 心原性肺病二次手術として (S/I: PLT: 20.3) ⇒リクシアナ00: 30mg/day開始 (心原性肺病)。Age: 78, 男: 58kg, Ser: 1.5, Cor: 33.3, 1/31: PLT: 19.2, AM に対するPCI施行後5年。冠動脈の狭窄なしにてバイアスピリン投与
- ※2022年1月1日: 心原性肺病に対するRateコントロールとして (HR: 100b/min) ⇒ビンゾロロール: 2.5mg/day開始 (既服前: 65b/minにて推移)
- ※2022年1月1日: 高血圧症治療薬を持参薬より代替・変更⇒ロスバスタチン00: 2.5mg/day (1/31: TP: 105, TG: 90)
- ※2022年1月1日: 高血圧症を持参薬より変更⇒アロプリノール: 100mg/day (1/31: UA: 6.2)
- ※2022年1月1日: 二型糖尿病治療薬を持参薬より一部変更⇒テネリア00: 20mg/day、メトホルミン: 500mg/day(250mg/回)。ランタス: 18単位/day(既服前) (1/1: HbA1c: 6.5, 現在内科検査 (糖尿病): 100→100にて推移。1400g/day/day)

【民主制: Episode】

- ※2022年1月10日: 尿路感染症に対し⇒STFK: 50mg/day(既: 1/30→1/12)

■これまでのアレルギー、薬剤副作用歴の有無: 無

・メトホルミンの入院中: ヨード造影剤使用時経時40時間内中止。

■誤剤に当たっての工夫等の留意点

・入院時: 【医療センター】、【メディカルセンター】よりそれぞれ持参薬があり、入院時より全て中止とし、一部山岡院の方にて変更。退院時よりインシュリングルグルペンのみ再開と致します。持参薬の詳細は別紙参照。

【入院中: Story】

2022年1月1日より中大脳動脈瘤 (OCM)、②中大脳動脈 (OCA) 破裂出血性梗塞、③心原性肺病にて山岡入院となり (admission)。入院時に対し⇒t-PH (グルトバ) 施行⇒血栓回収術施行⇒再開通。④に対し1/1→1/7: エタラボン注を投与。⑤⑥に対し心原性肺病二次手術として⇒リクシアナ00: 30mg/day、Rateコントロールとして⇒ビンゾロロール: 2.5mg/day開始。また現在上記の病変 (持参薬より変更) によるSymptomatic treatment (対症療法) を継続。その他入院時、【医療センター】、【メディカルセンター】よりそれぞれ持参薬があり、入院時より全て中止とし、一部山岡院の方にて変更。退院時よりインシュリングルグルペンのみ再開と致します。持参薬の詳細は別紙参照。1/31: フローIP: MNにて新規検査・検査なく2/1自覚退院となります。(admission)

1/31: 採血結果 (単位省略): AST: 15, ALT: 12, γ-GTP: 8, BUN: 16.2, Scr: 1.5, Cor: 33.3, 電解質 (Na: 136.0, K: 3.8, Cl: 102.5), UA: 6.2, TP: 105, TG: 95, PLT: 19.2, A1b: 3.5, 1400g/day/1/1: HbA1c: 6.5, また現在IP: 150b/min/65b/min, HR: 65b/minにて推移しております。血圧管理を念今後の内科的フォローの継続を要し、継続いたします。

日本医療関係者会様式を一部変更

病名: 社会医療法人社団 千葉県脳神経外科病院

退院時期:

住 所: 千葉県千葉市緑区 新沼原400番地

TEL: 043-250-1220



まとめ

全患者に退院時薬剤情報共有書の作成をすること

- ①病・薬歴のリアルタイムの一元管理(後処理)が必要
 - ②その為には作成するための時間の確保が必要
 - ③だからPBP(システムをシフト)を作る必要がある
 - ④PBP・**M**を共有(シェア)するシステムを作りの標準化
 - ⑤退院までに既往・入院中・退院後というそれぞれのセクションのEpisodeを一元管理、**Episodeを繋げてStory**を可視化により再統合することでconsensus(理解)を生む
- 患者様・他の医療従事者・薬剤師にとってWin ×** 

トピックス

- ①タスクシェア・シフトの概要
- ②PBP・Mの考え方
- ③薬から始まる患者情報の院内共有と院外共有
- ④PBP・Mの標準化でもたらされる薬剤師の生産力・還元力
- ⑤ Connecting with a line の考え方
- ⑥シンデレラにできること
- ⑦政府の今後の指針と展望
- ⑧患者様をメンバーに含むチーム医療の可視化
- ⑨当院の考える薬剤師の育て方



10年後通用する薬剤師としての教育・指導をトレーニングします

- ①自分を客観的に評価できる方法を身に着けます 指導
- ②自分の限界を自分自身知ってもらう方法を身に着けます 指導
- ③苦しいときの考え方・乗り越え方を身に着けます 教育
- ④気付きによる考え方の変化を身に着けます 教育
- ⑤知識を生産力・還元力に変える考え方を身に着けます 教育
- ⑥同じ5歩でも3歩進んで2歩下がるから、4歩進んで1歩下がる効率性を生産力に変える考え方を身に着けます 教育
- ⑦一つ一つの事象(Episode)を Connecting with a line し Storyとしてを総括的な見方・考え方を身に着けます 教育
- ⑧全ての事象に対しアウトカムを示すスケールを可視化します 指導



目指すはコース料理店ではなくラーメンチェーン店



ご清聴ありがとうございました

